

折紙探偵団新聞

400部
突破だ
28号

折紙設計夜話

川畑文昭

第四回

【設計軌跡線再延長法】

折り紙の科学国際会議の論文締切も刻々と忍び寄り、台風による停電でデータが消えるなどのアクシデントにも耐えながら、探偵団新聞の原稿が遅れたことを反省する昨今であります。さて話を本題に戻すことにしましょう。前回内部設計の方法として一値分子化方法を述べましたが、今回は設計軌跡再延長法という別の方法について述べることにします。但し、軌跡再延長法も実は一値分子化方法の特殊解であることを、今回の内容でご理解意していただければ幸いです。

式(1)は、第26号にて示した設計軌跡の式ですが、同式の適用拡大を考えます。式(1)を求めた条件は●点間を結ぶ直線上に○点が存在することを前提としましたが、図1に示す様に各点が一直線上に無い場合にも実は式(1)の適用が可能となります。これを図2を用いて簡単に証明してみましょう。

図2に示す様に、 $\angle CAF$ の2等分線を線分AE、 $\angle GBC$ の2等分線を線分BEとすれば、 $\triangle AFE$ と $\triangle ACE$ は合同、 $\triangle BGE$ と $\triangle BCE$ も合同となります。従って、線分EF=線分EC=線分EGであるため $\triangle EFD$ と $\triangle EGD$ は合同、 $\angle DFE = \angle DGE$ 、 $\angle AFE = \angle BGE = \angle ACE = \angle BCE$ であり、線分AE、線分DE、線分BE、線分CEの各線分は四角形ADBCの外周を図3に示す様に一直線上にそろえながら折ることが可能となります。このことは例えば設計軌跡線を使って図4に示す設計も可能であることも示しています。さてここで図5に示すような軌跡設計点を与えられた場合、そこから線Aと線Bを基準に再び式(1)に従い設計軌跡線Cが再延長できることになります。このように新たな軌跡を再延長していく方法が設計軌跡再延長法なのです。

$$x = L \sqrt{1 + \frac{y^2}{(1+L)(1-L)}} \quad \text{----- 式(1)}$$

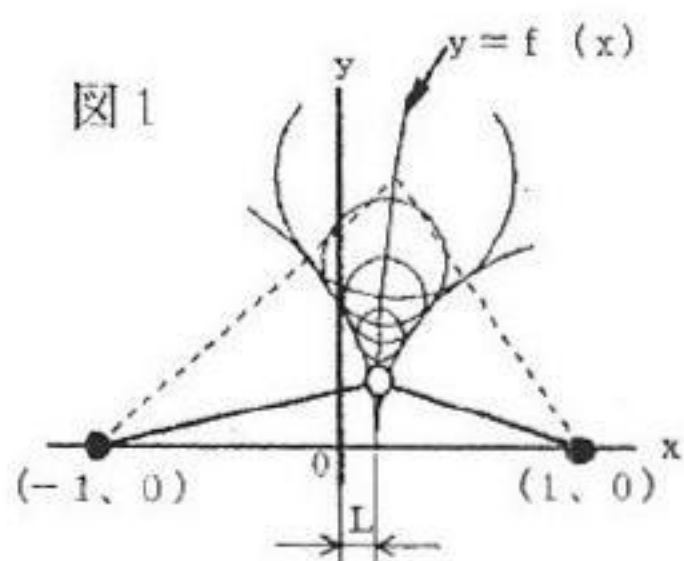


図1

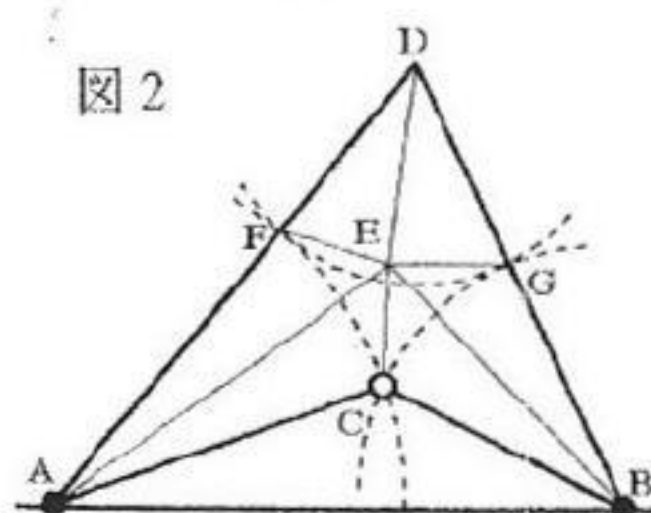


図2

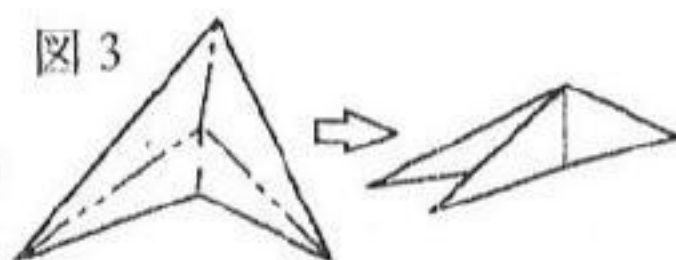


図3

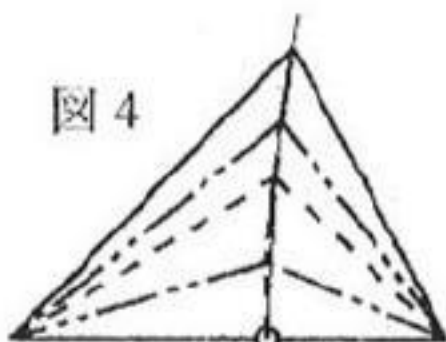


図4

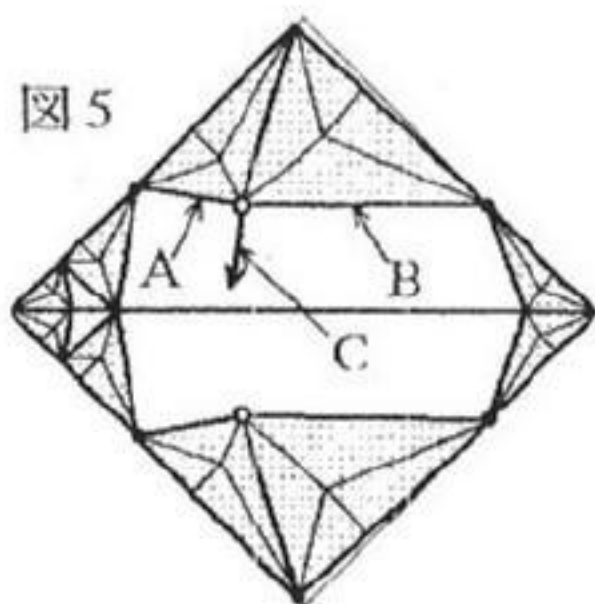


図5

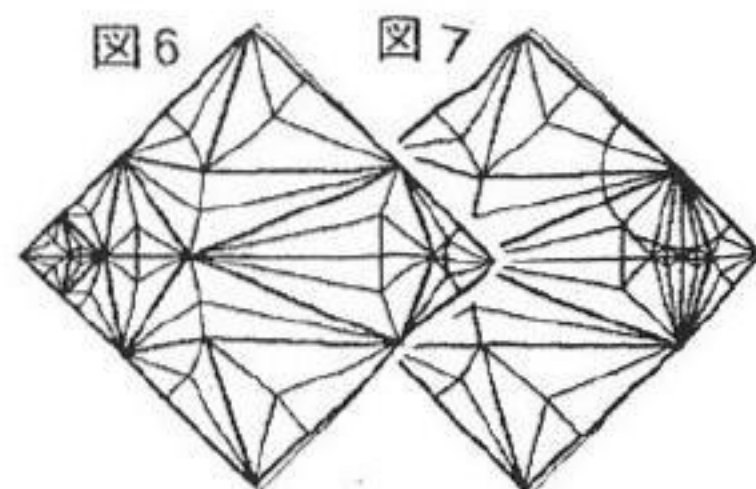


図6

図7

図5における軌跡再延長法により図6の内部分割ができ、最終的に設計されない部分を一値分子化して設計を完了します。基本的な方法は以上ですが、必要に応じ、図7に示すようなカドの長さを確保するための設計見直しを実施して完成となります。この軌跡再延長法は、内部を細く折る傾向や、折り線が中心に集中するポイントも出来やすくなり、造形の時に支障をきたすこともあるため、前回の一値分子化方法とあわせその適用を考えることが必要と思います。

【一口メモ】

設計軌跡線を無限に延長した時、式(1)より式(2)を導き、 y/x 、すなわち軌跡上の点と原点を結ぶ線分がX軸となす傾きを求める。ここで $x \rightarrow \infty$ とおけば、式(3)が得られ、角度 α は式(4)で得られる。設計軌跡線を無限に延長することは蛇腹折りと等価であり、これが図8に示すような蛇腹折りでのカドの分割比を示すこととなる。

$$\frac{y}{x} = \sqrt{\left(1 - \frac{L^2}{x^2}\right) \frac{(1+L)(1-L)}{L^2}} \quad \text{--- 式(2)}$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{y}{x}\right) = \frac{\sqrt{(1+L)(1-L)}}{L} \quad \text{--- 式(3)}$$

$$\alpha = \tan^{-1} \left(\frac{\sqrt{(1+L)(1-L)}}{L} \right) \quad \text{--- 式(4)}$$

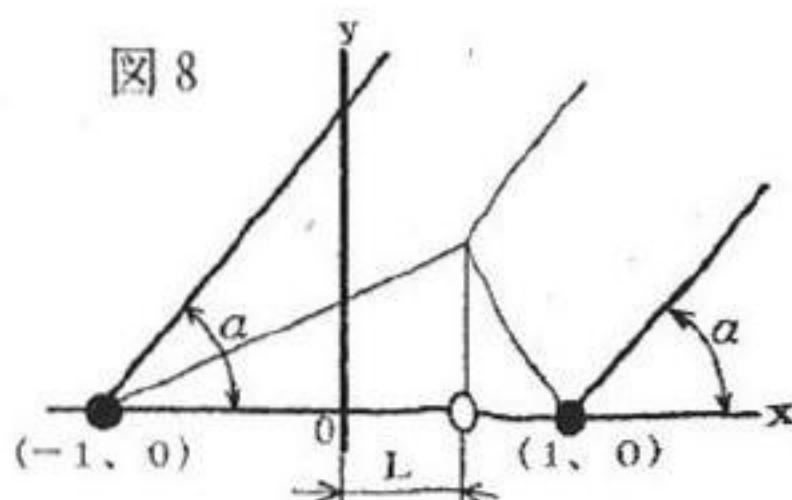


図8

折紙博物誌

番外編

— 前川 淳 —

§ 漫画二描カレタル折紙



「折り・折り」
の誤り



コマの中の
おりがみ



「折紙博物誌」の第2部は、前々回「紙のかたち」前回「紙と紙」ときて、「紙と糊」「紙の種類」と進める予定だった。思いつきで書いているエッセイのように見えて、著者の頭には緻密な（笑）構想があったのである。おりがみの前提となっている各種の事柄をひと通り見直すという、短い文章にしては大胆な構想である。いや、これはまだつつけるつもりだが、今回は気分をかえて番外編にした。番外編ではあるが、なるだけ多くの情報を盛り込んで読者に供するこの連載の基本方針（そういう基本方針だったのです！）は崩さない。誰も褒めてくれないので自分で褒めよう。

以前「文藝二現ハレタル折紙」なるものをやったが、今回はマンガを中心にしたその姉妹編。これは、著者が活字中毒・本屋さん中毒である以上に、常日頃いかに「おりがみ」を気にかけているかを示すものだ。文豪トマス・マンにいわせていた北杜夫氏が「トマトソース」と書かれた看板を見てハッとした有名な話。あれに似て、「折りたく柴の記」「折りの造形」など、「折り」や「折り」といった字を含む書名や、おりがみを思わせる図像にハッとしたりおりがみ好きの業のなせるわざである。先日も神田で、表紙に折鶴が描かれているだけで、新刊と古本をそれぞれ買った。新刊は近藤史恵氏の小説「ねむりねずみ」。「千羽鶴折形」の「比翼」がでてくる。歌舞伎の世界を舞台にした推理物で、折紙庵・岡村さんには特におすすめだ。古本のほうは山手樹一郎氏の時代物で、本文に折鶴は登場しない。そればかりか、「江戸の顔役」という題と話の内容がどうも一致しない妙な本だった。「文藝二現ハレタル折紙」には他にも補遺があるのだが、それはまたの機会にして、今回のメインテーマ「マンガ」にしよう。

探偵団新聞の生源寺さんのマンガはなかなか脱力を誘うバカらしさ（褒め言葉だよ）だが、この手のものとしては、中川いさみ氏の「くまのプー太郎」がいい。第3巻(?)所収の「カブトを折る博士」の話。それだけではどんな話かわからないが、読んでもよくわからない。五月どきのマンガに兜のおりがみは山ほど登場するが、この「プー太郎」はそういうほのぼの路線と一線を画したアホらしさ。同じシリーズに、コンビニエンスストアのレジで店員がいきなり鶴を折る話もあったと記憶する。

手塚治虫氏の「火の鳥」の中の折鶴はまったく違った意味で忘れ難い。「復活編」。人間の記憶を受け継いだロボットが鶴を手にしたシーンがちらりとある。手塚氏の大ファンの笠原邦彦氏もちゃんと知っていた。細野不二彦氏の、ツアーコンダクターを扱った「リザベーションブリーズ」にも折鶴が出てきた。ベトナム・キングのチップに折鶴を添えるとサービスがよくなる話。眉唾である。折鶴はニッポン文化の重要な「記号」なので、それが登場するマンガは他にもたくさんあるだろう。ただ、マンガに限らずイラストなどの折鶴はいい加減なものが多く、ちゃんと描かれているものはがっかりするくらい少ない。天才・手塚治虫氏にしてもかなり手抜きの絵だ。

高橋留美子氏の「めぞん一刻」では、保父のアルバイトをする主人公が器用におりがみを折る。榎本宣吉氏みたいだ。（面識はないけど・・・）何年か前の子供の日の調査で兜が折れるお父さんが50人中2人かそこらであったのを思うと、立派な才能。

西岸良平氏の「三丁目の夕日」に、副題「折り紙・千代紙」なる一巻がある。やさしいお姉さんがおりがみを折ってくれましたという「いかにも」の話であったと思うが、伝承作品の折り方も掲載され、きちんとし

たものだった。

おりがみと「やさしいお姉さん」は山と言え川みみたいなもので、新潮国語辞典だったか「おりがみ：紙を折って様々なかたちをつくる女兒の遊び」という（記憶で書いているのでこの通りではないが）肩をすくめざるをえない記述があったことが思い出される。おりがみにとっても、フェミニズムにとっても「女兒の遊び」は問題だよ、新潮社さん。猛省を促したい。辞書の「おりがみ」の定義はこれまた面白いテーマ。いままで見ただけで最も優れていたのは、Concise Oxford Dictionaryで、「紙を折り畳んで手の込んだデザインをつくる日本のアート」というもの。いずれまたあらためて触れたい。話がずいぶん逸れた。「女兒の遊び」のこと。横山光輝氏の、題名も忘れてしまった20年近く前のマンガに「こんなものは女の遊びだ」とおりがみを投げ出す少年のエピソードがあり、なかなかよく描けている絵だったこともあって複雑な印象を持ったのを思い出したのである。

・けっこうたくさんあるような口ぶりで書きはじめたが、こんなところだろうか。そうそう、とっておきがあった。たかもちげん氏の「代打屋トーゴー」に、何と「おりがみ作家」なるものが登場するらしいのである。このことを教えてくれたのは、西川氏だったか吉野氏だったか、気になっているのだが、まだ見る機会を得ていない。もうひとつ、これは手元に、ブラジルに行ったときにもらったマンガのコピーがある。メガネをかけたその名もSUKIYAKYなるキャラクター。ポルトガル語で書いてあるので今ひとつよくわからないが、おりがみばかりやっていて上司に「もっと大きな仕事をしろ」と注意されたスキヤキ氏が、特大の紙でおりがみを折る話（らしい）。日本文化の神秘的な側面を象徴的に示した佳品である（なんてね。そんなに大層な話のわけがない）

この他に、おりがみの登場するマンガ・絵画などを知っている方は折紙探偵団新聞編集部までお知らせください。情報を寄せてくださった方には、豪華プレゼント・・・は用意されていませんが、感謝します。

学食おすすめメニュー

雪の結晶

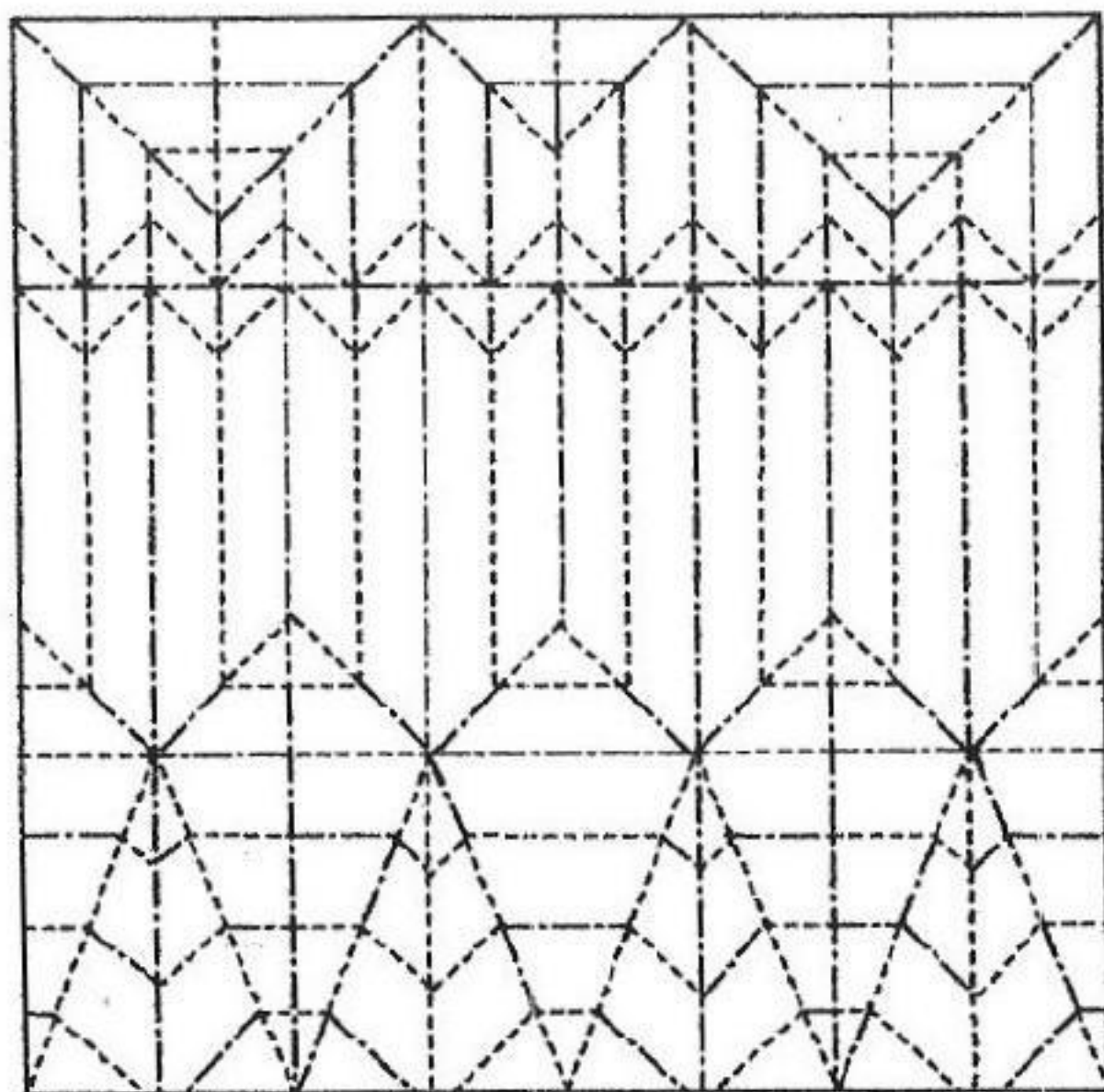
北條高史

(大学4年生)

バイトの学生御挨拶

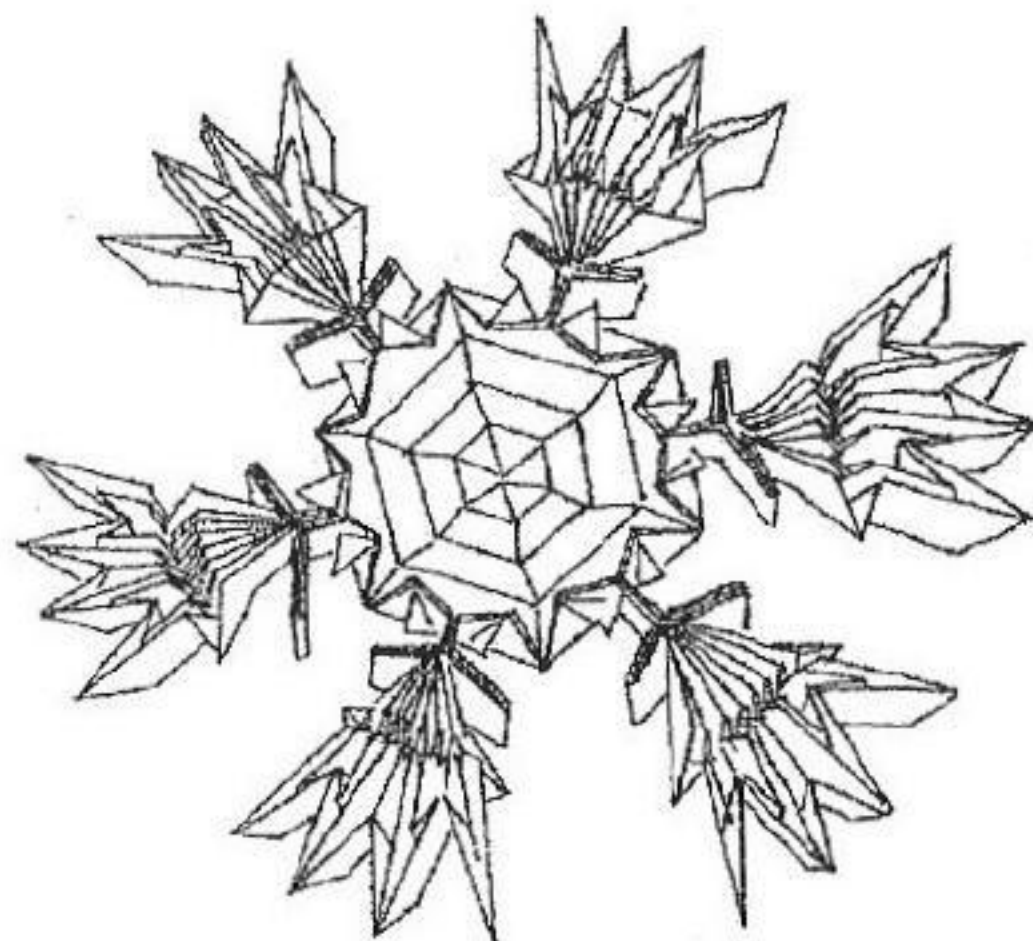
折図ページには初登場の北條です。ついでに言うともともと折図を描くのも今回が初めてで、ところどころわかりにくかったり、手順をすっとばして描いていると思える所もあるようですが(スイマセン!)そんなときは知力、体力、時の運でなんとかカバーしましょう。ここに示す枝部分の加工の仕方はほんの一例です。折り慣れたらいろいろ改造して楽しむのもよいでしょう。

それでは3時間
たっぷりお楽しみ
(お苦しみ?)
ください。

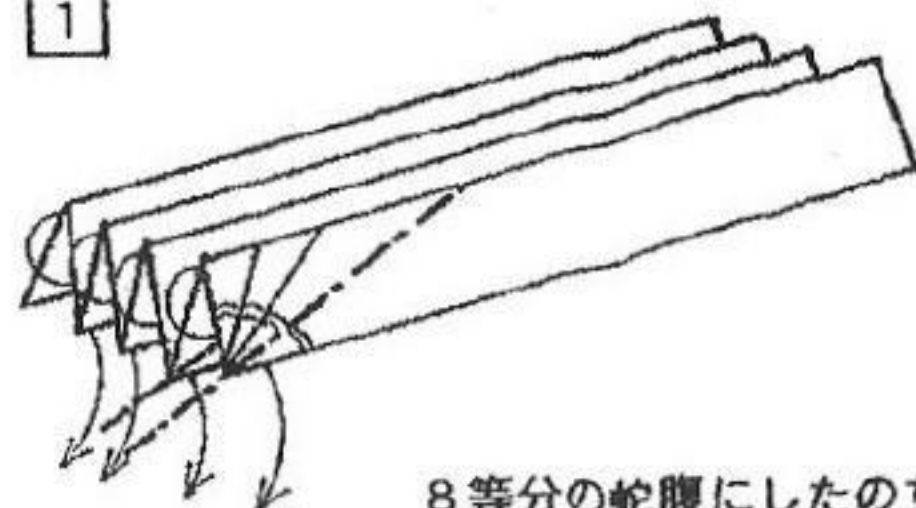


<展開図>

これはうらから見たものです



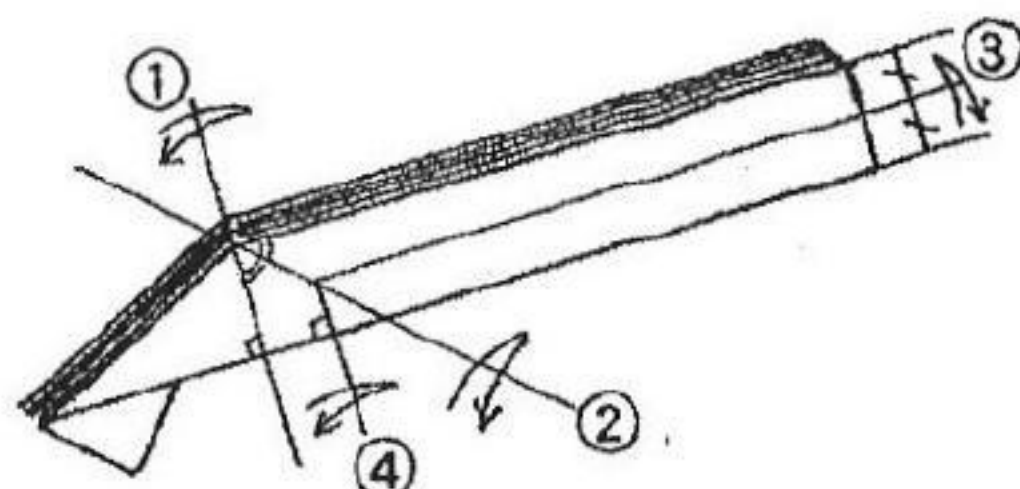
1



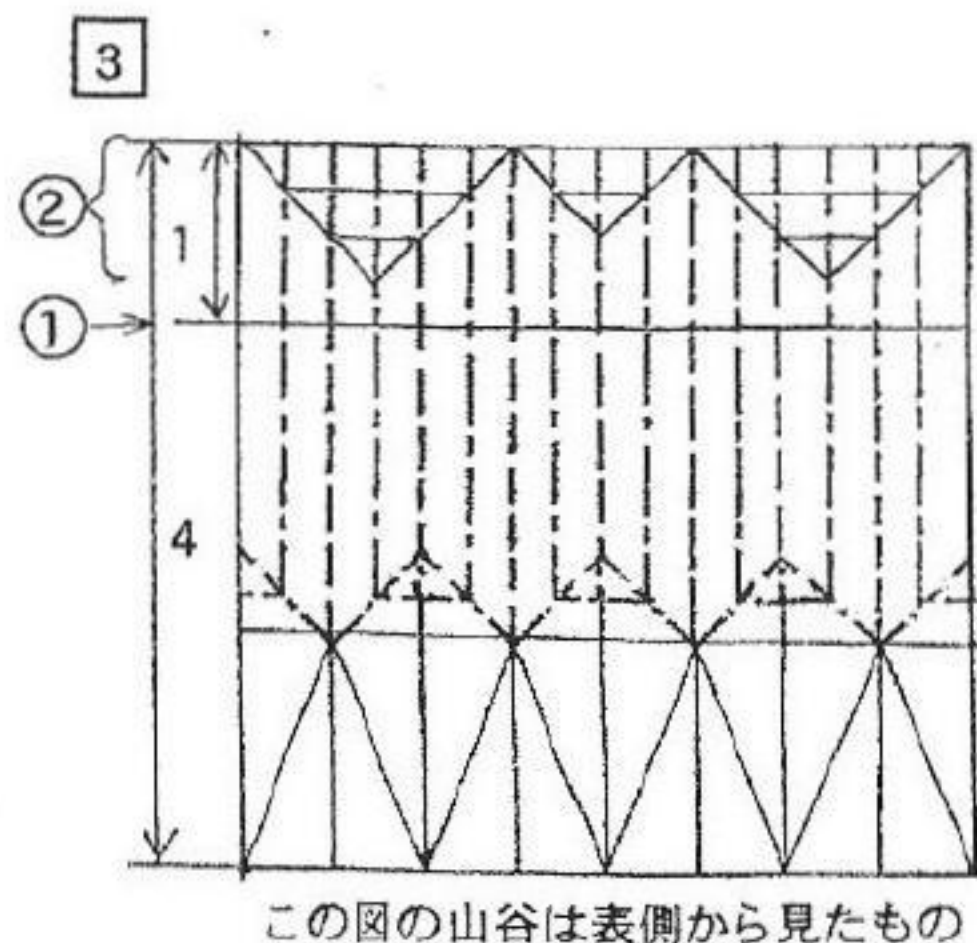
8等分の蛇腹にしたのち
4カ所を中割り折り

2

図の番号順に折りすじを
しっかりつけたのち一度ひろげる

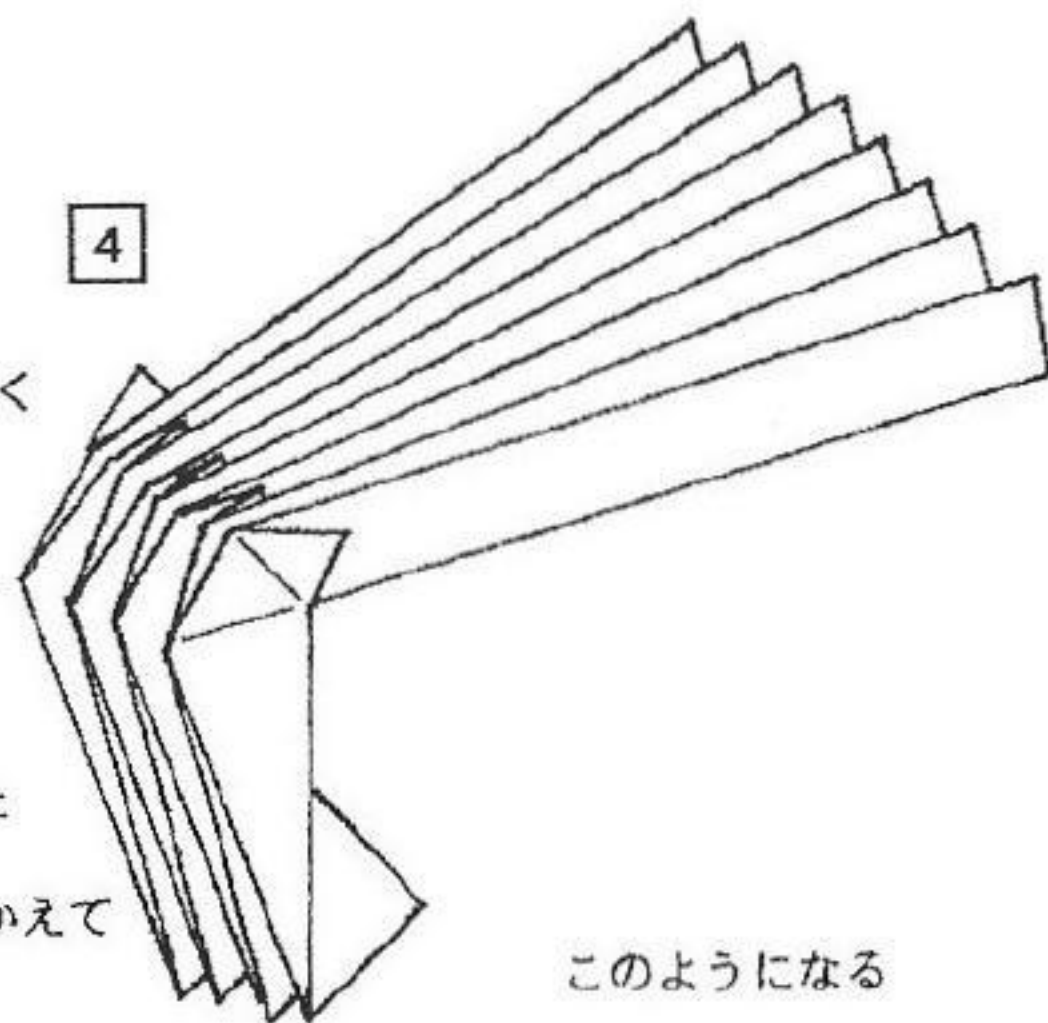


②の工程は全体をひろげてから1本ずつ
つけるようにするときれいにできます

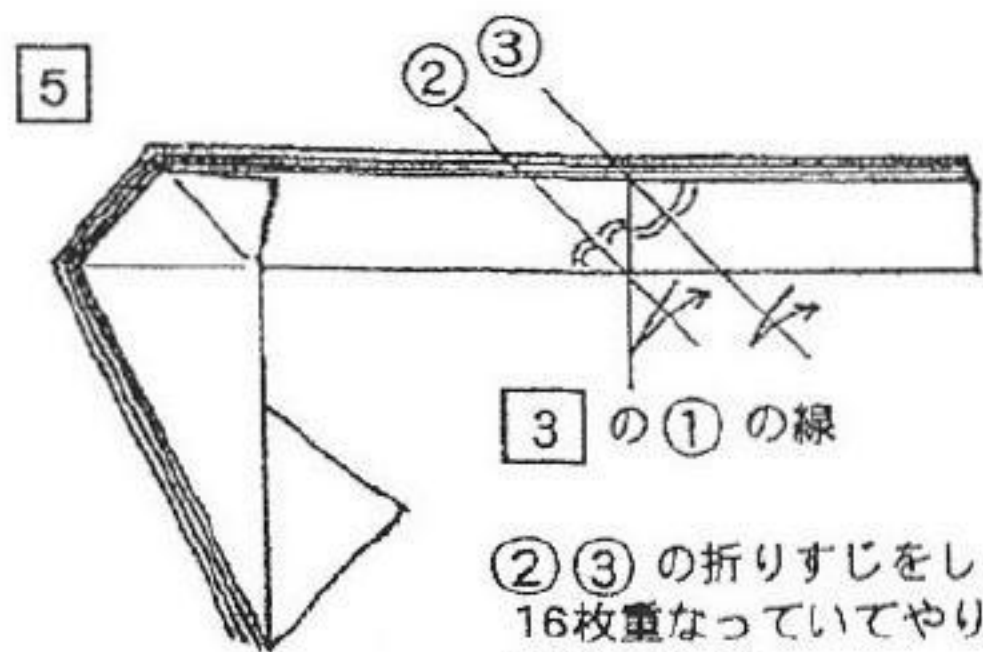


まず上部に①②の折り線をつけておく

さらに②でつけた折りすじを左図のような山谷に折りかえてたたみ直すと

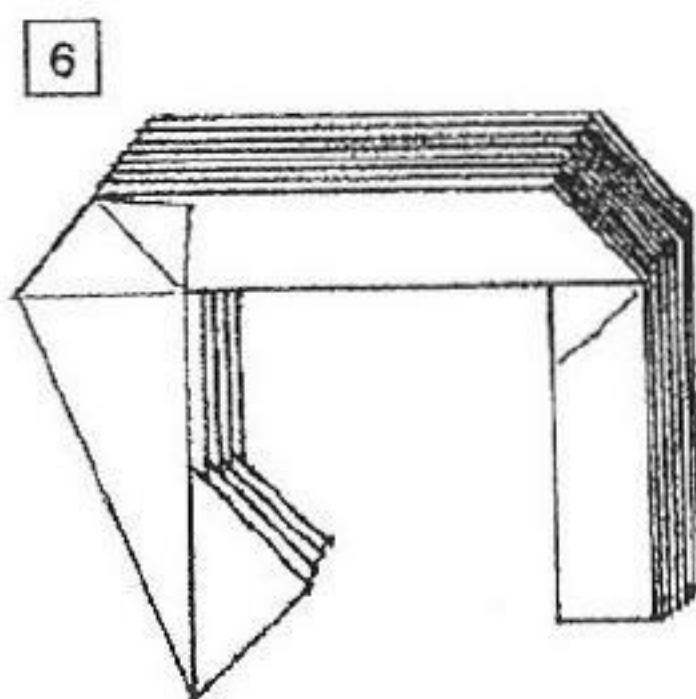


このようになる

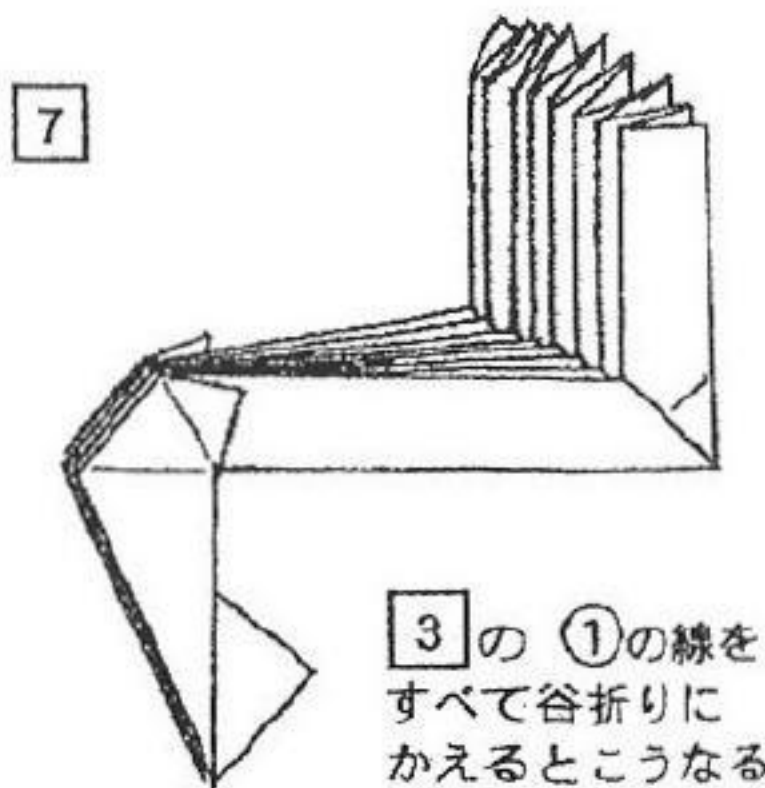


③の①の線

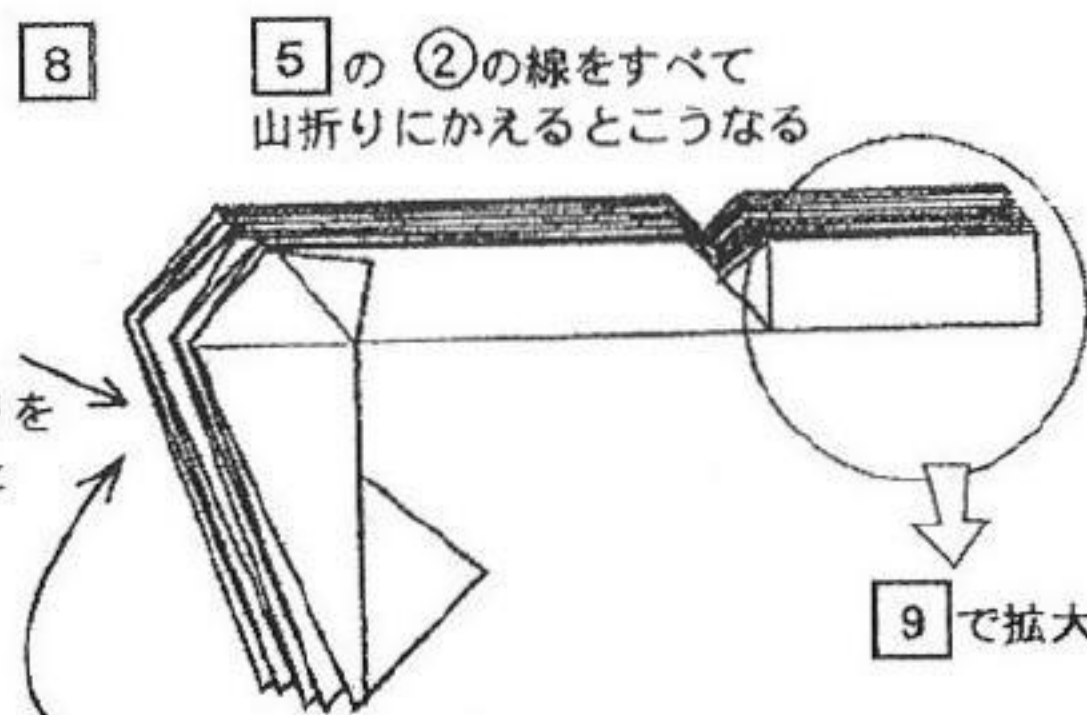
②③の折りすじをしっかりとつける
16枚重なっていてやりにくいが
ていねいに!!



⑤の②の線を
すべて山折りに
かえるとこうなる



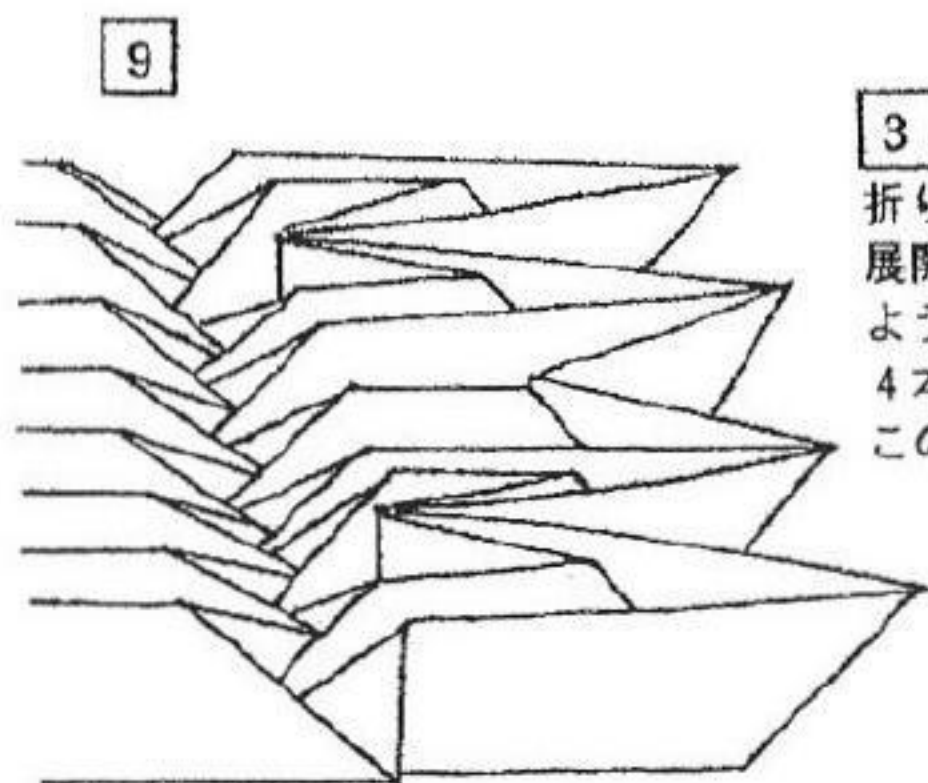
③の①の線を
すべて谷折りに
かえるとこうなる



⑤の②の線をすべて
山折りにかえるとこうなる

この部分①で
行った中割り折りを
手前から1番目と
3番目だけ
戻しておく

⑨で拡大



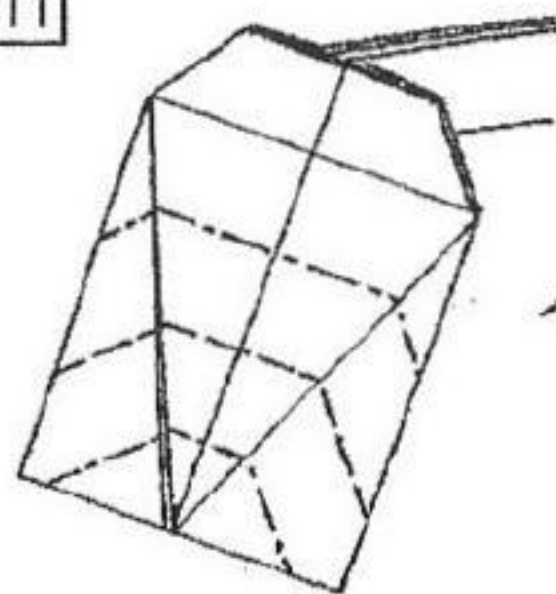
③の②で加えた
折り線を前頁の
展開図の上端の
ような山谷に直し
4本の枝を出すと
このようになる



この部分(基部となる)を真ん中から開き
以下のように4等分の折りすじをつける

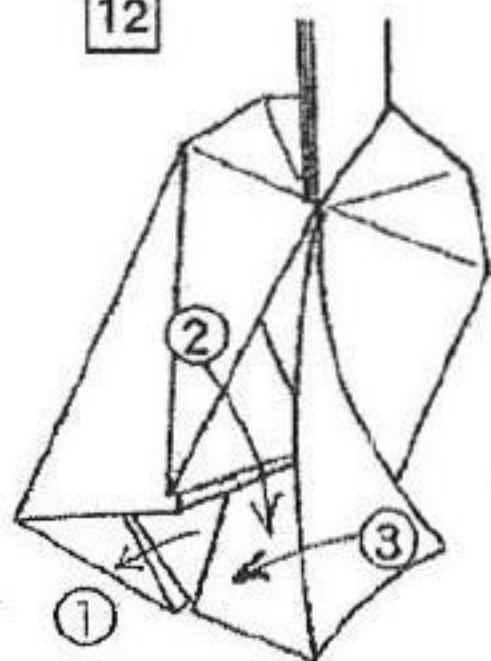
折りすじを付けたのち
⑧でもどした
中割り折り部分を
再び中割り折りにし
もどさなかったほう
(手前から2番目と4番目)
を今度はもどす

11



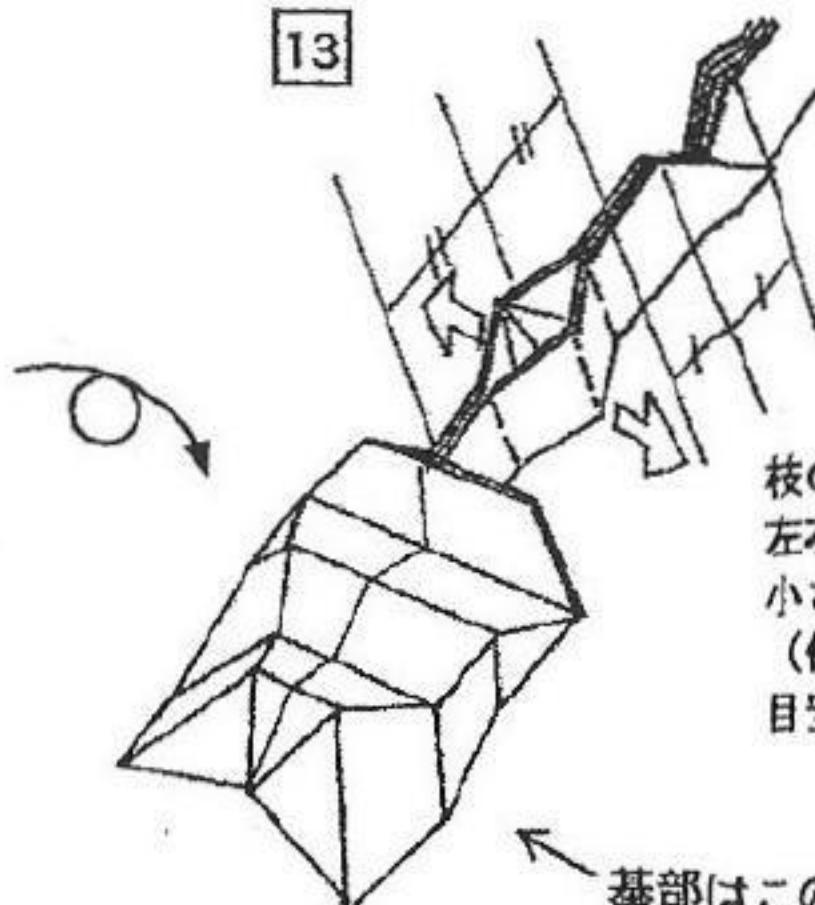
10 でついた
折りすじを図のような
山谷につけなおす

12



裏側はこのように
まとめておく

13



枝の中腹を
左右にひっぱり
小さな枝を出す
(位置はあくまで
目安です)

基部はこのように
立体的になる

15

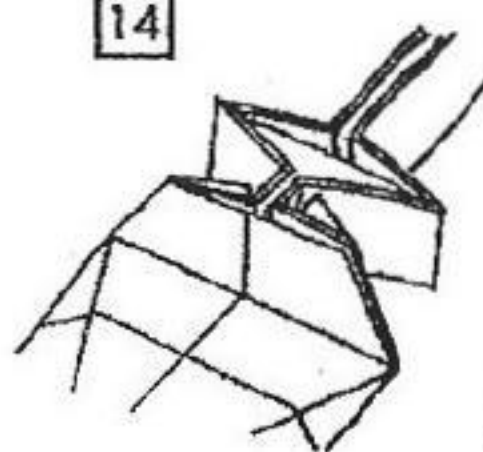


14 までも6個つくり
以下のように組んでから
13 のように基部を立体化する

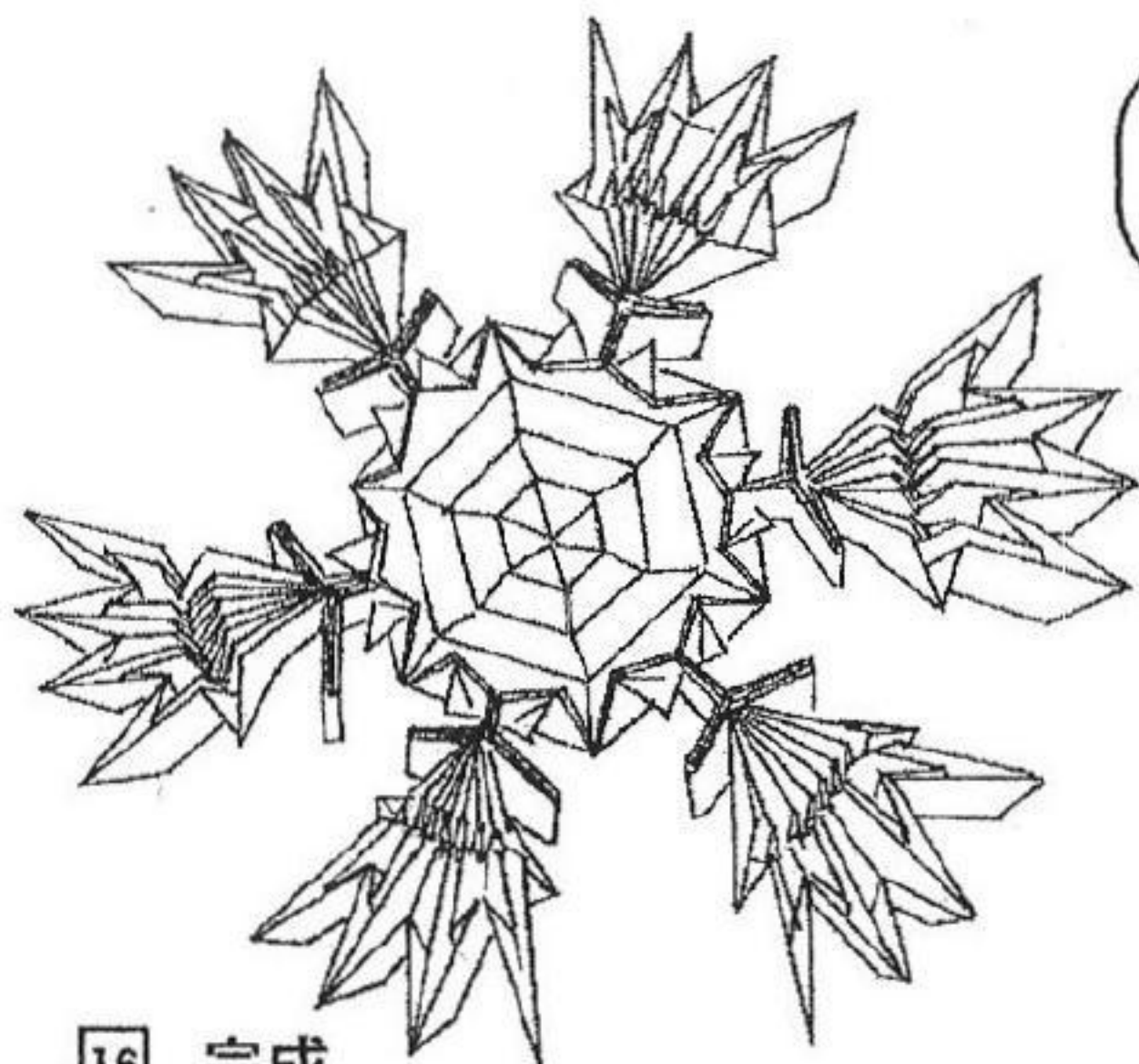
ポケットに
さしこむ

裏側のポケットにさしこむ

14



このように
枝が出る



16 完成
おつかれさまでした!!

しかし...ひとつの部品に
こんだけ手間のかかる
ユニット折り紙も珍しい
と思います。



料理長のお奨め品

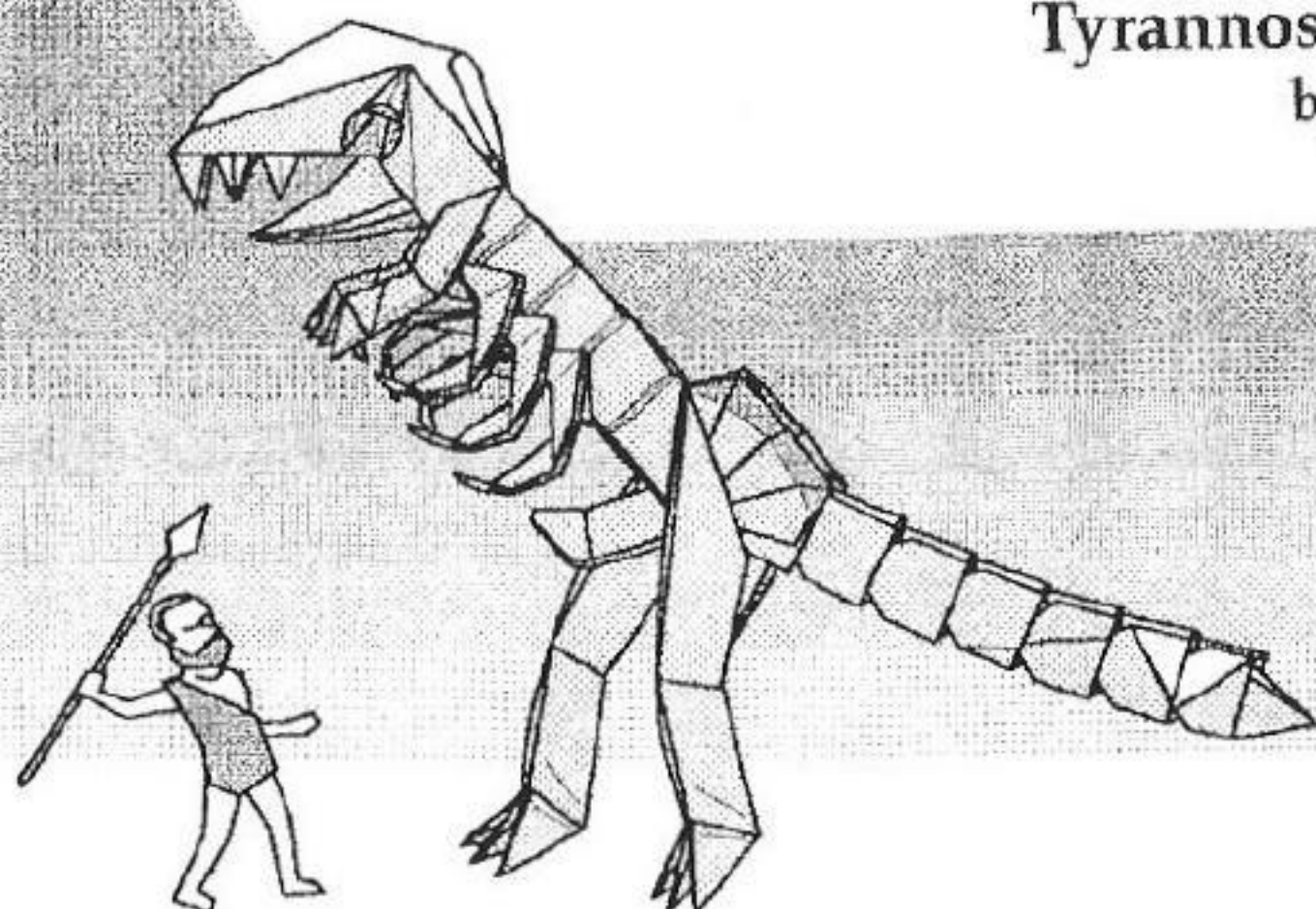
正方形不切一枚折

ティラノサウルス全身骨格

ロバート・J・ラング

Tyrannosaurus Rex Skeleton

by Robert J. Lang. ©1992



編集部注

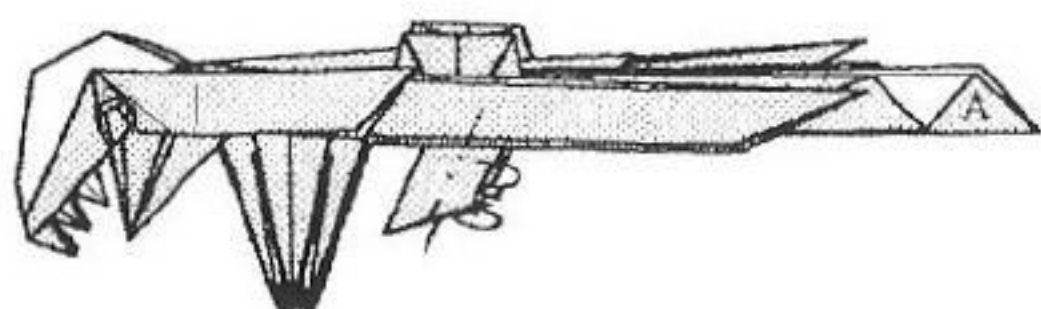


図中の
この記号は

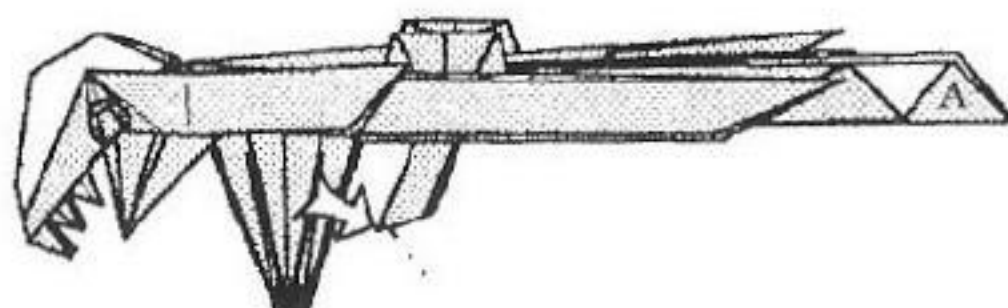


これと同じで
「おりすじを
つける」
の意味です

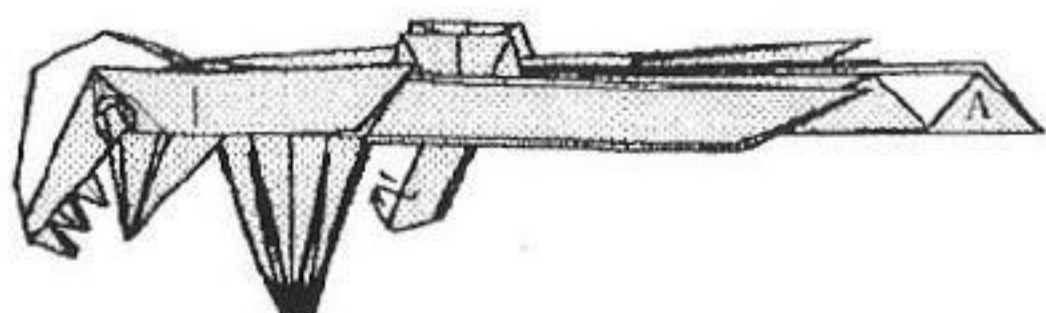
.....の線は仮想線です
折りすじをつけないように



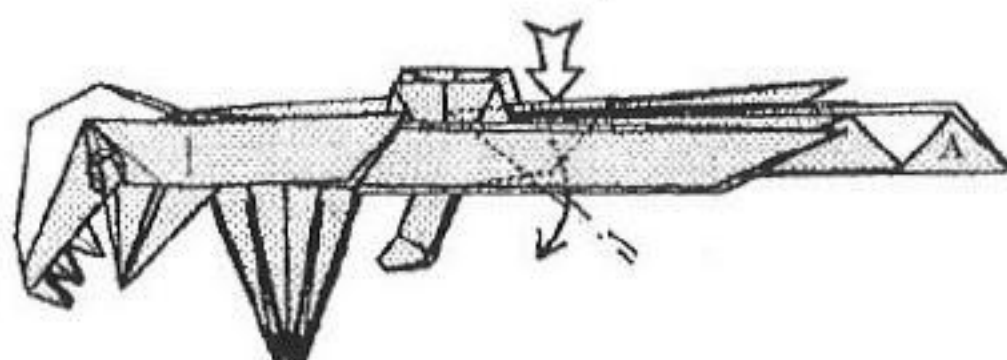
<119>角を内側に折って細くする。



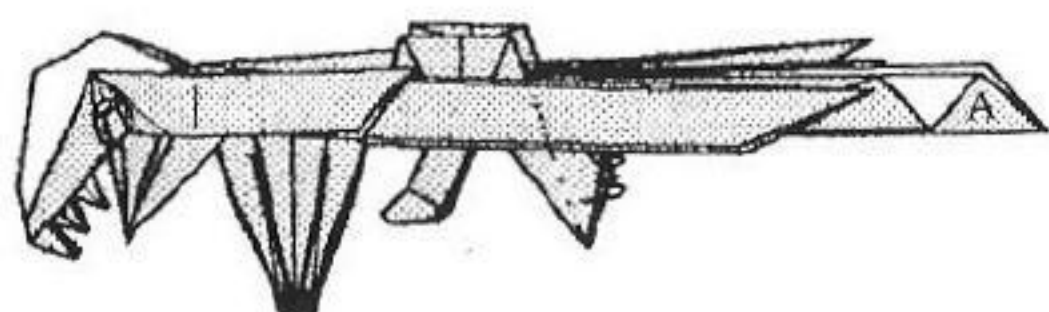
<120>先端をなかわり折り



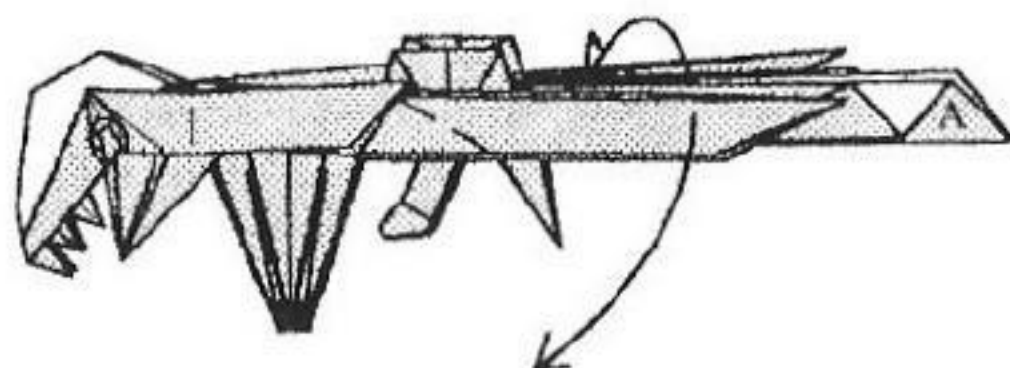
<121>両面を段折りして
先端を上向きにする



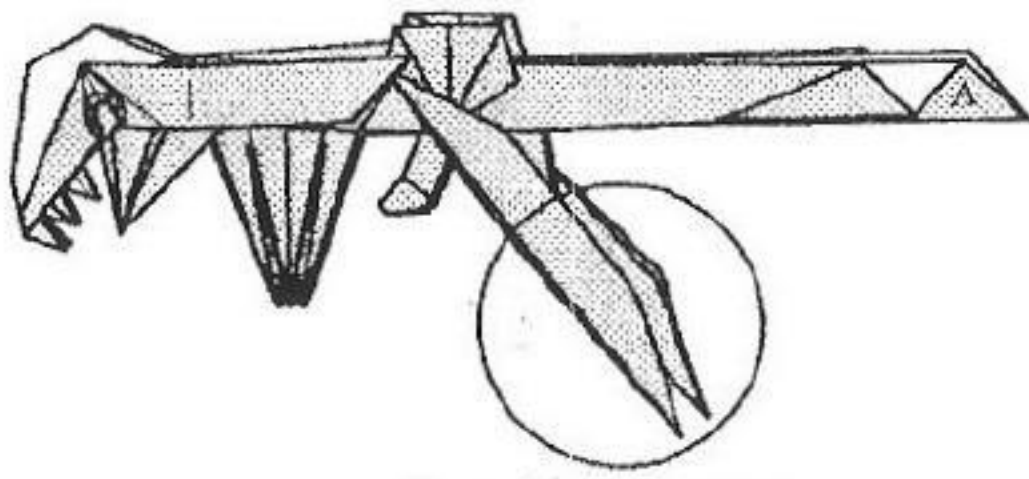
<122>もうひとつの角を<118>とは
ちがう角度になかわり折りしておろす



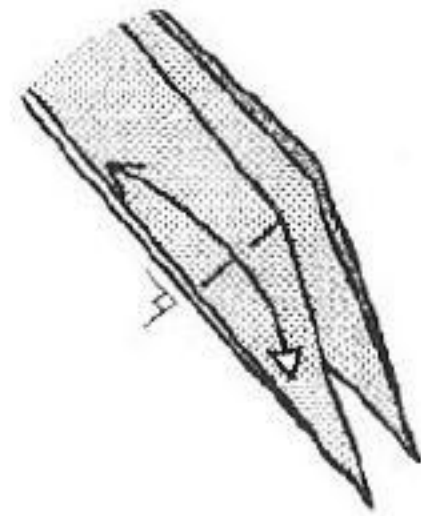
<123>角を内側に折って細くする。



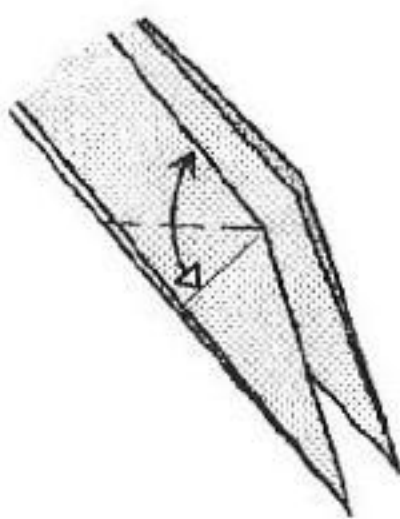
<124>足を下に折る



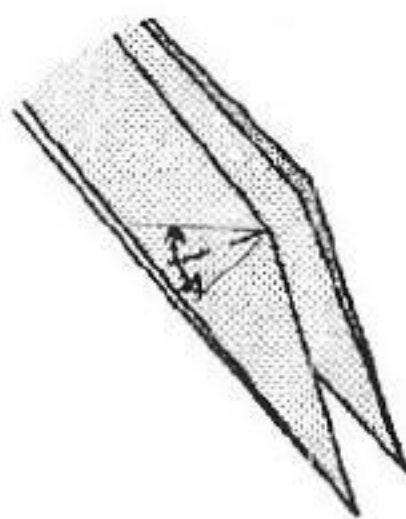
<125>ステップ<126>~<136>は
丸でかこんだ脚の折り方をしめす



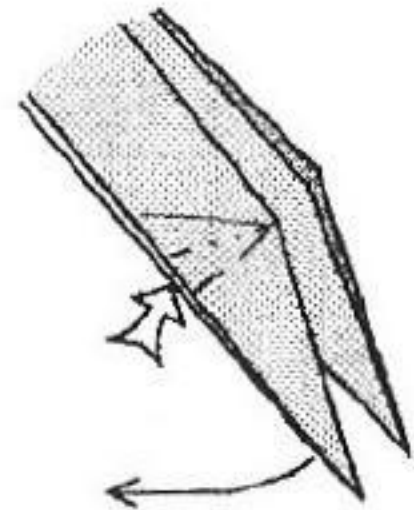
<126>折りすじをつける



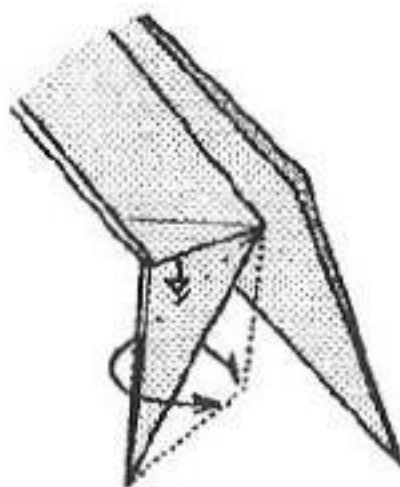
<127>軽く折りすじをつける



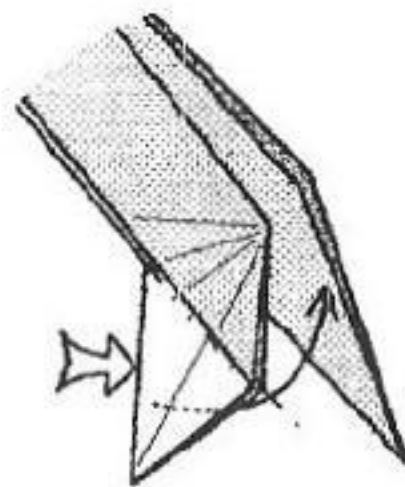
<128>しっかりと折りすじをつける



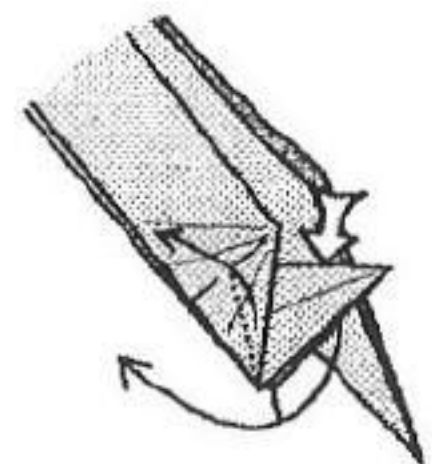
<129>今つけた折りすじで
表裏両側に段折り



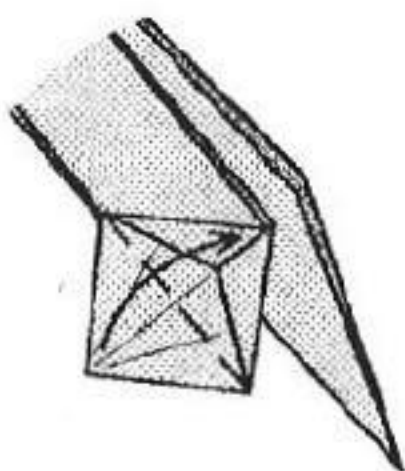
<130>折り込まれている紙を
引き出す



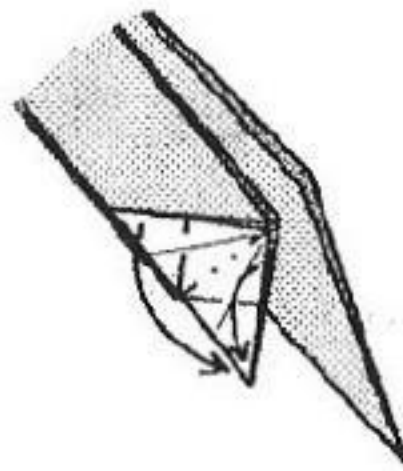
<131>なかわり折り



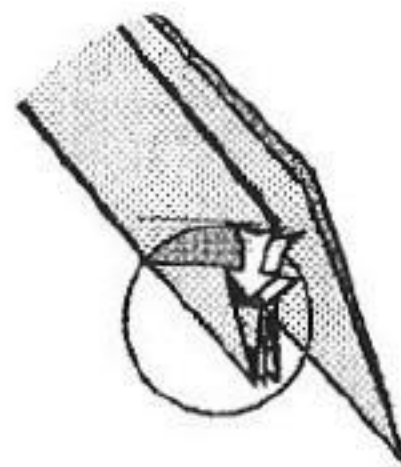
<132>ひらいてつぶす



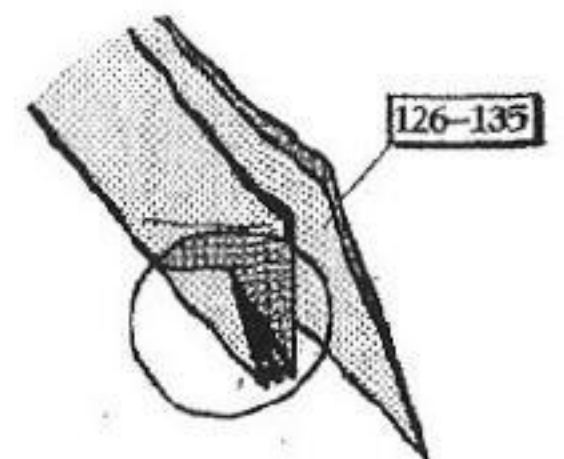
<133>右へ折る



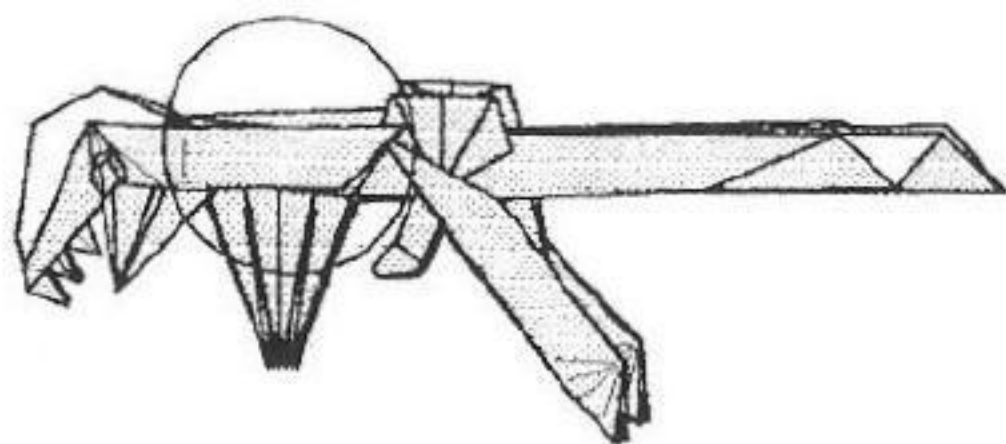
<134>なかわり折り
しながら閉じる



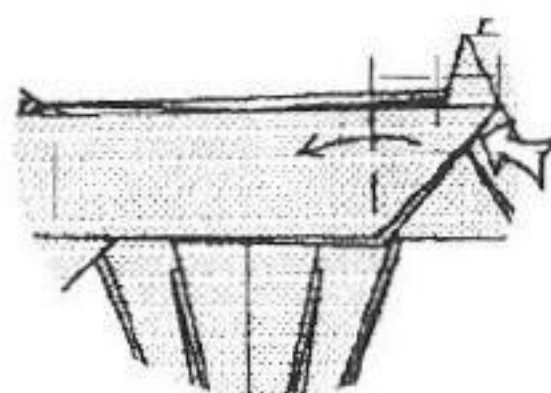
<135>中の2つの角を
なかわり折り



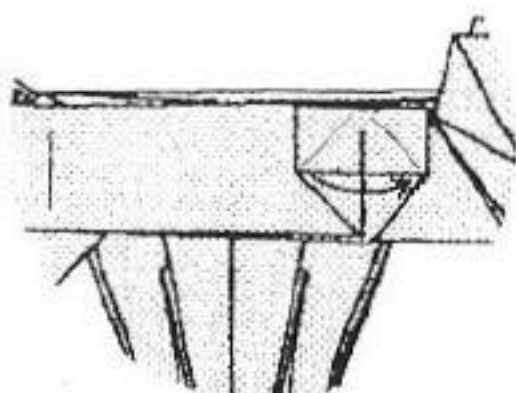
<136>もう片方の脚も
<126>~<135>と
同様に折る



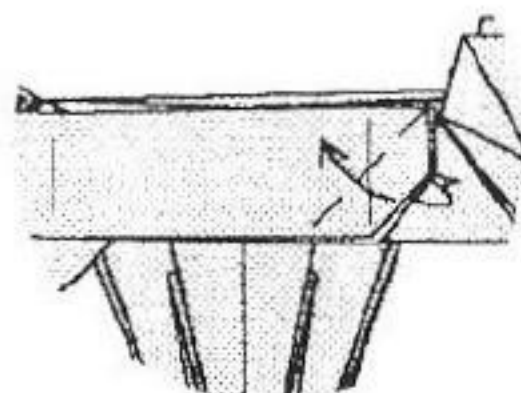
<137>ステップ<138>~<142>は
丸でかこんだ脚の折り方をしめす



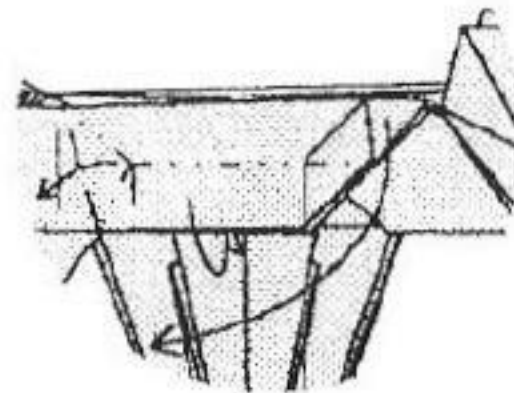
<138>先端を
ひらきながらつぶす



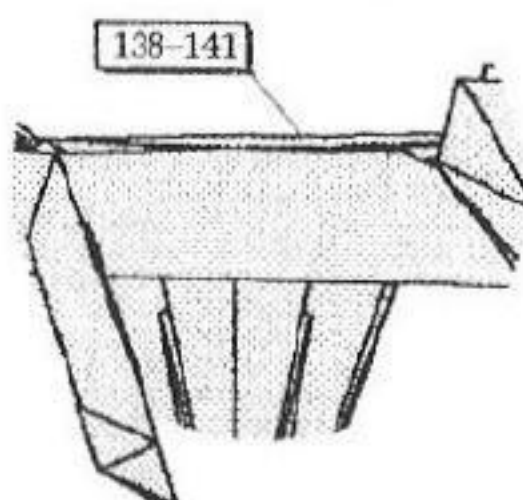
<139>右へ閉じる



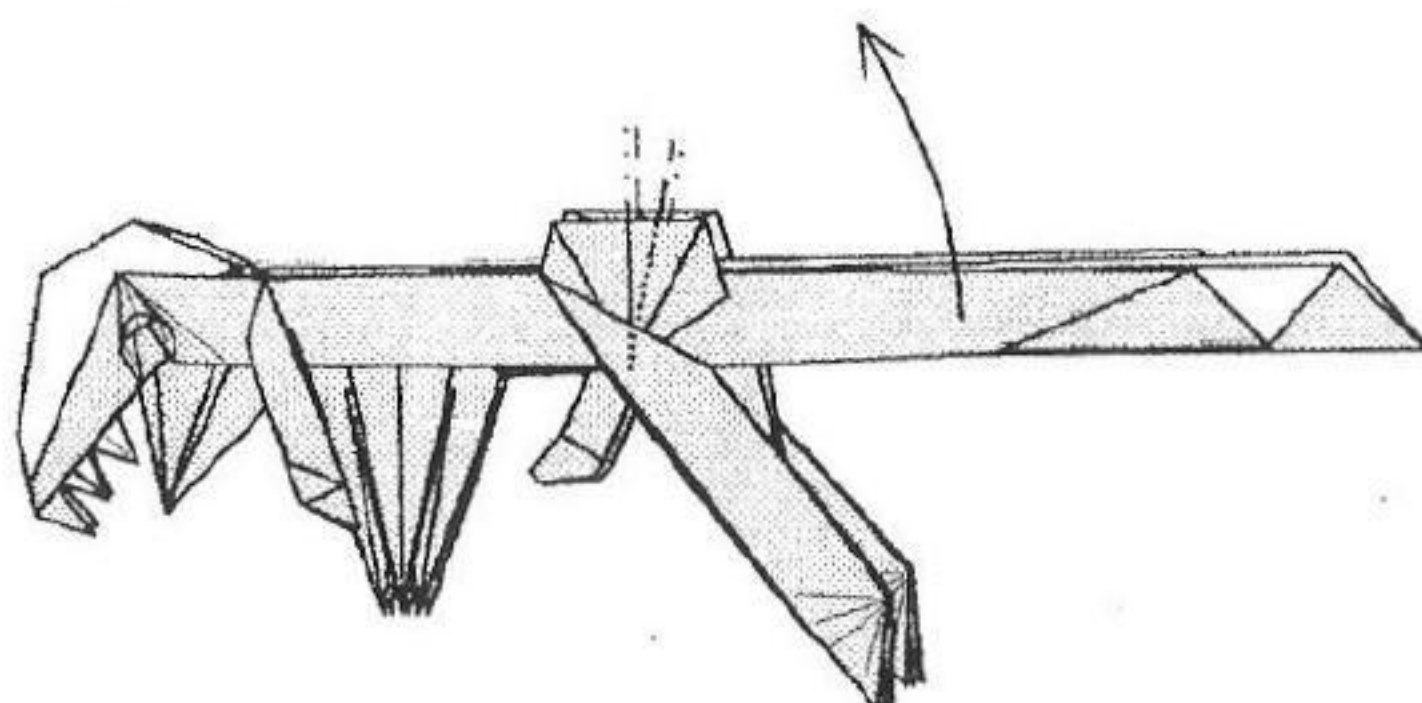
<140>先端を折り上げて
細くする



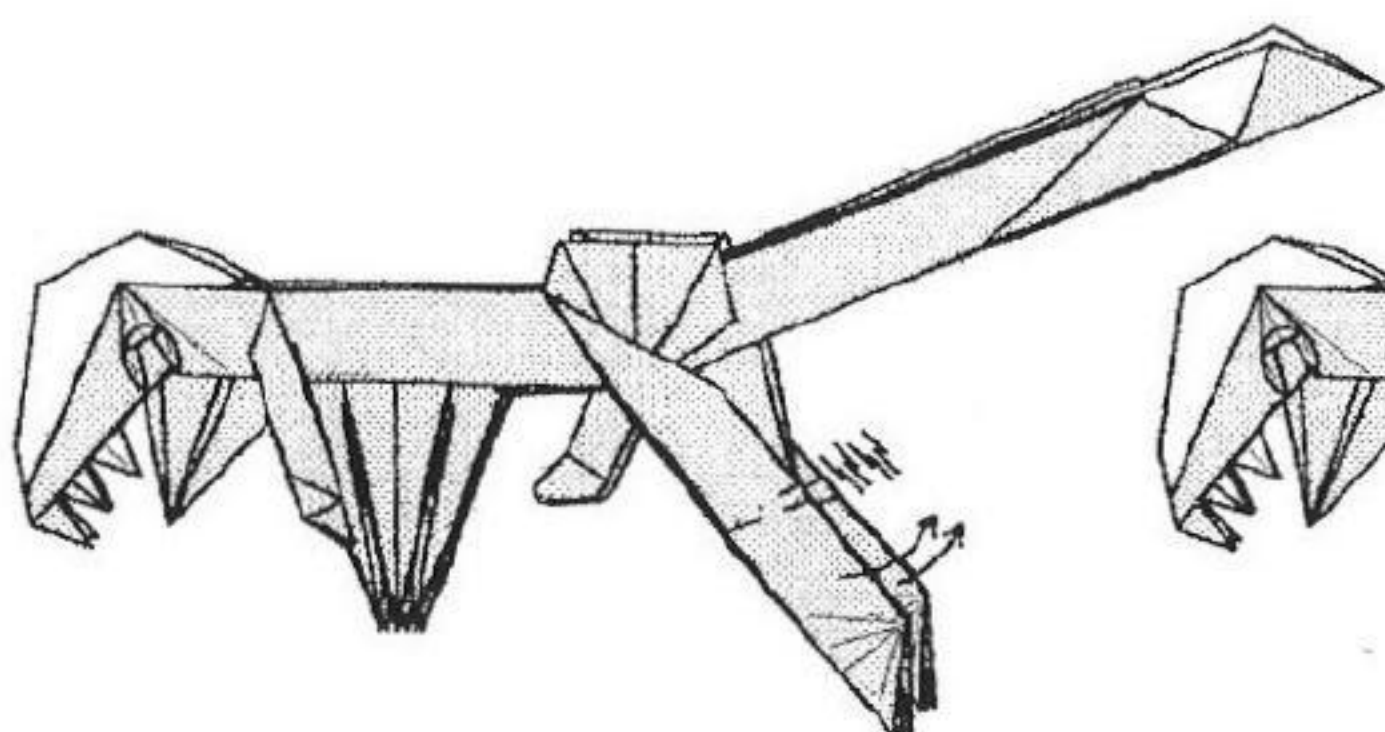
<141>つまみ折り



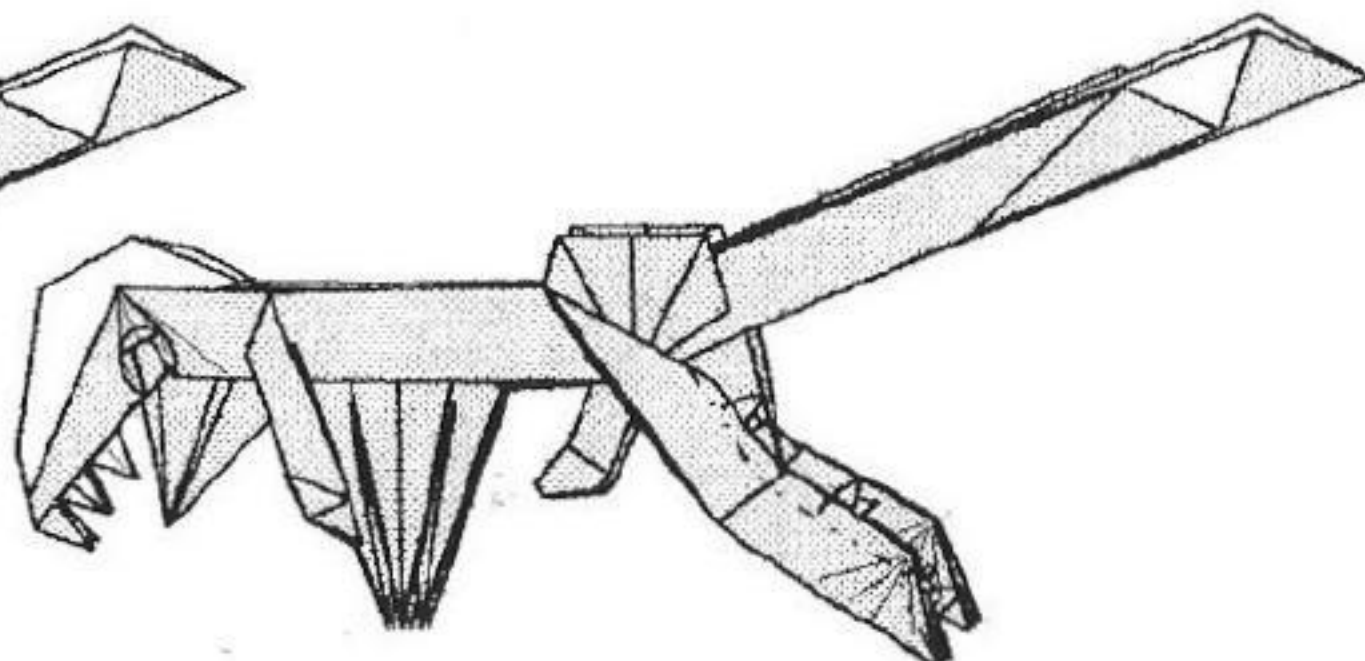
<142>裏面も
<138>~<141>と同様



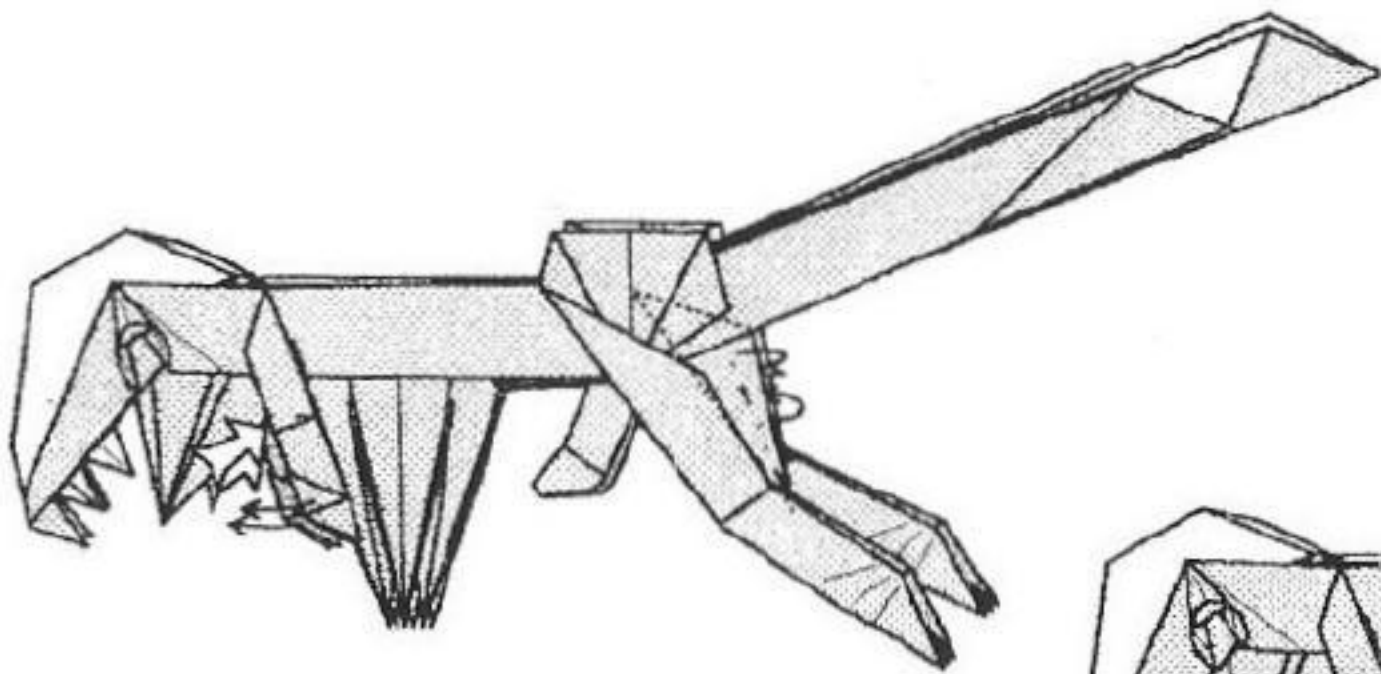
<143>両面を段折りして
尾を引き上げる



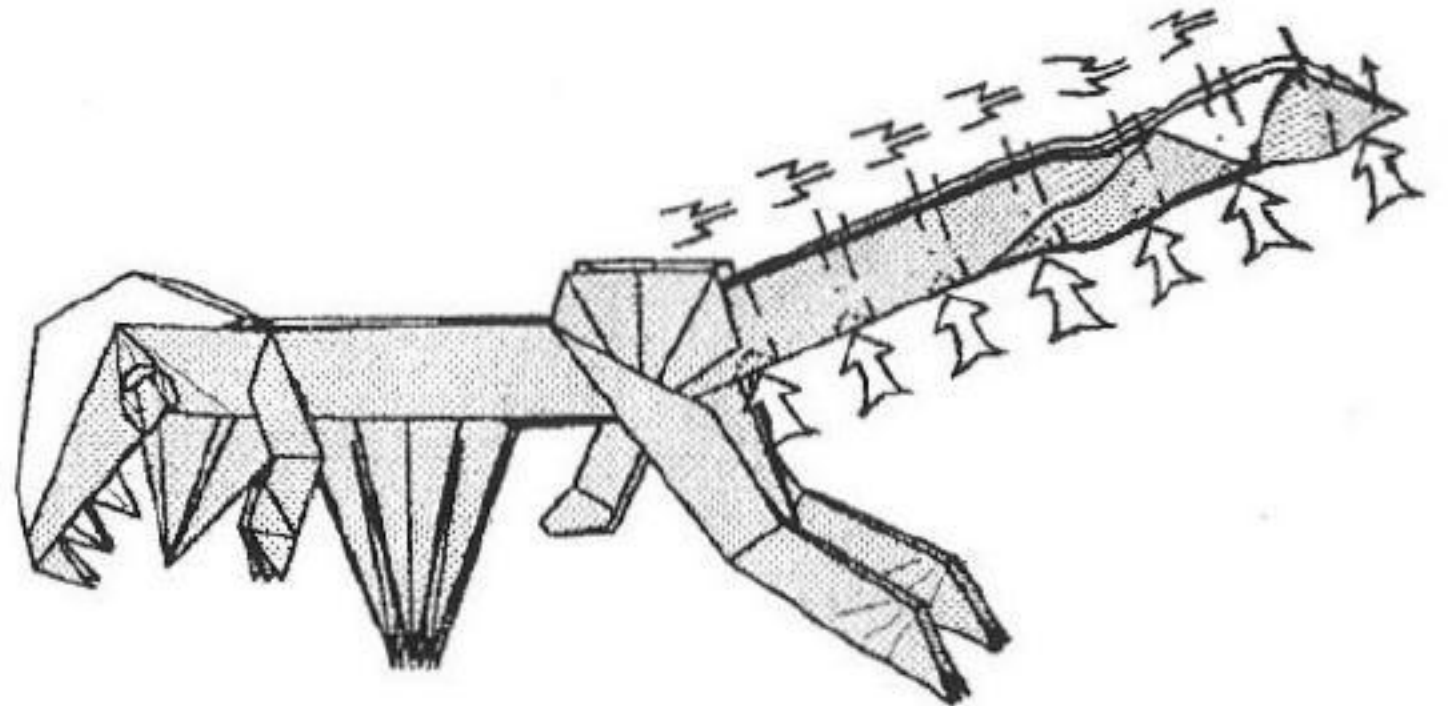
<144>左右の脚ともに
両面段折り



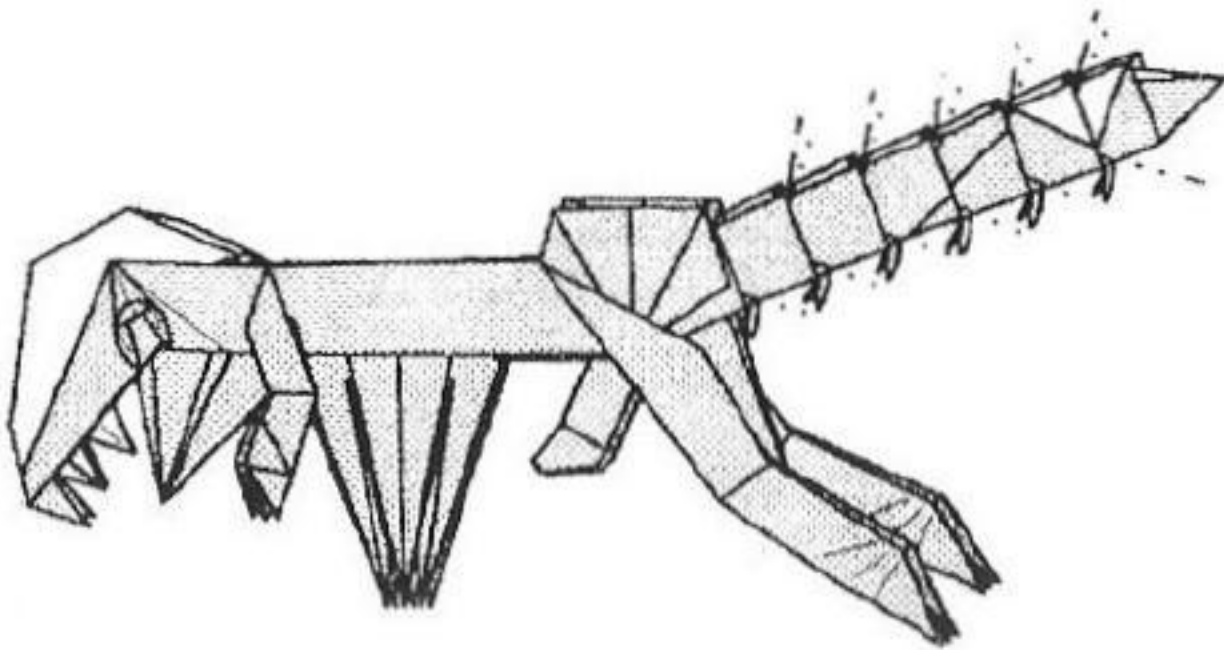
<145>脚を細くする



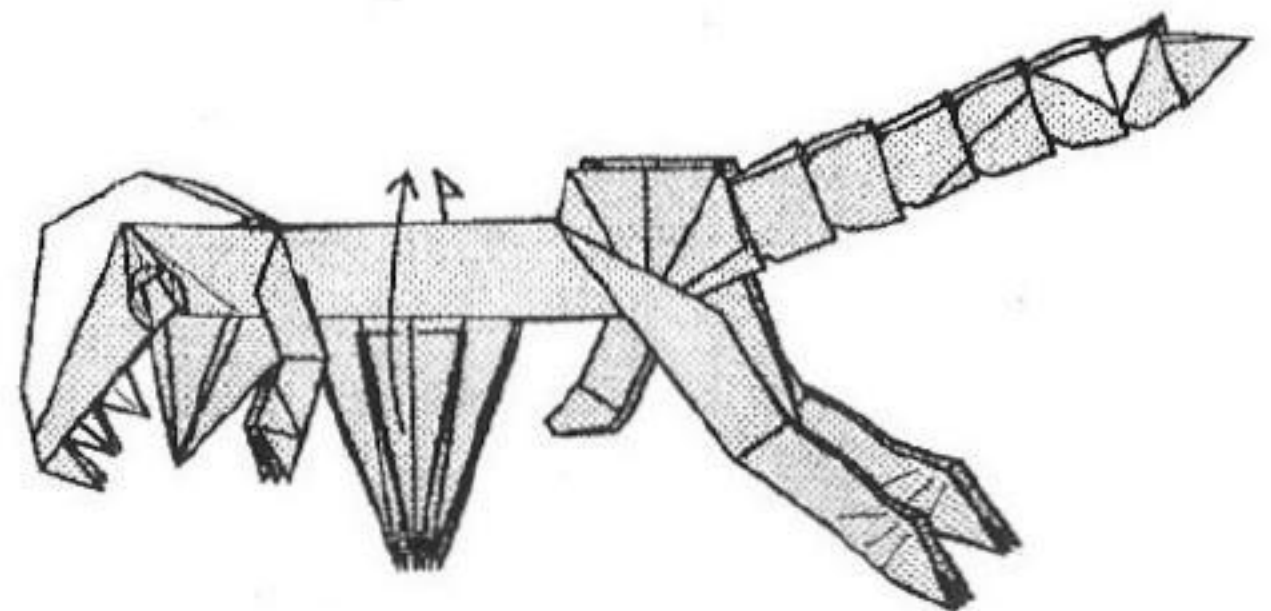
<146>腕を両面段折りして
ヒジをつくる
山折りして坐骨を細くする



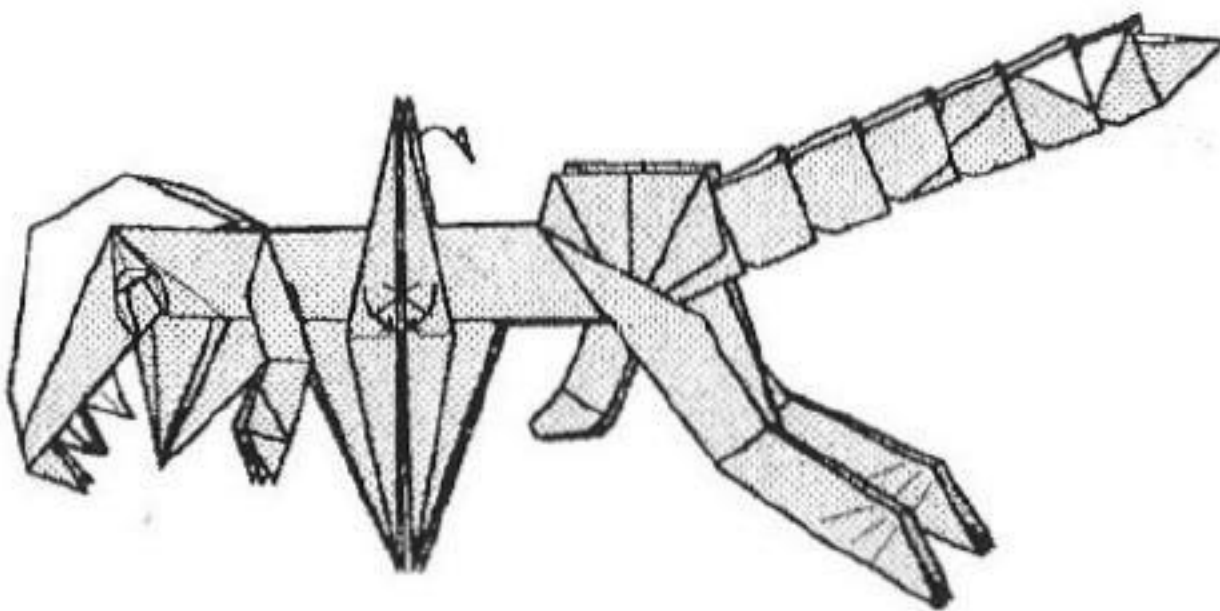
<147>尾を両面段折り
中心部は下から押し込む



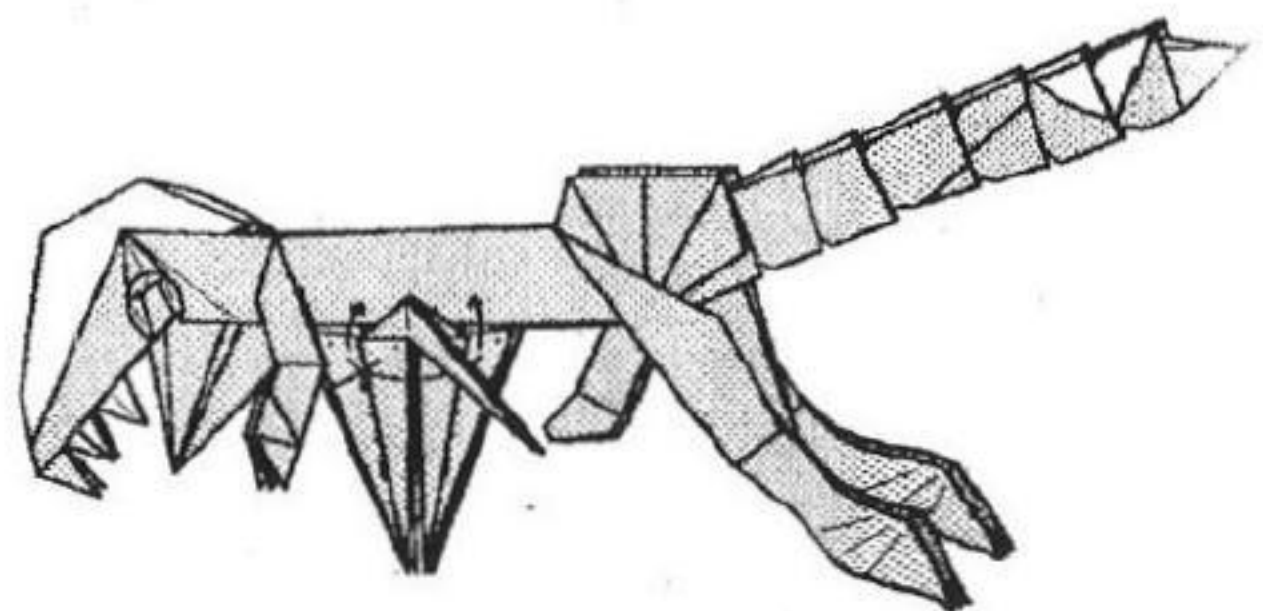
<148>ヒダのはしの角を
山折りして中に折り込む
裏面も同様



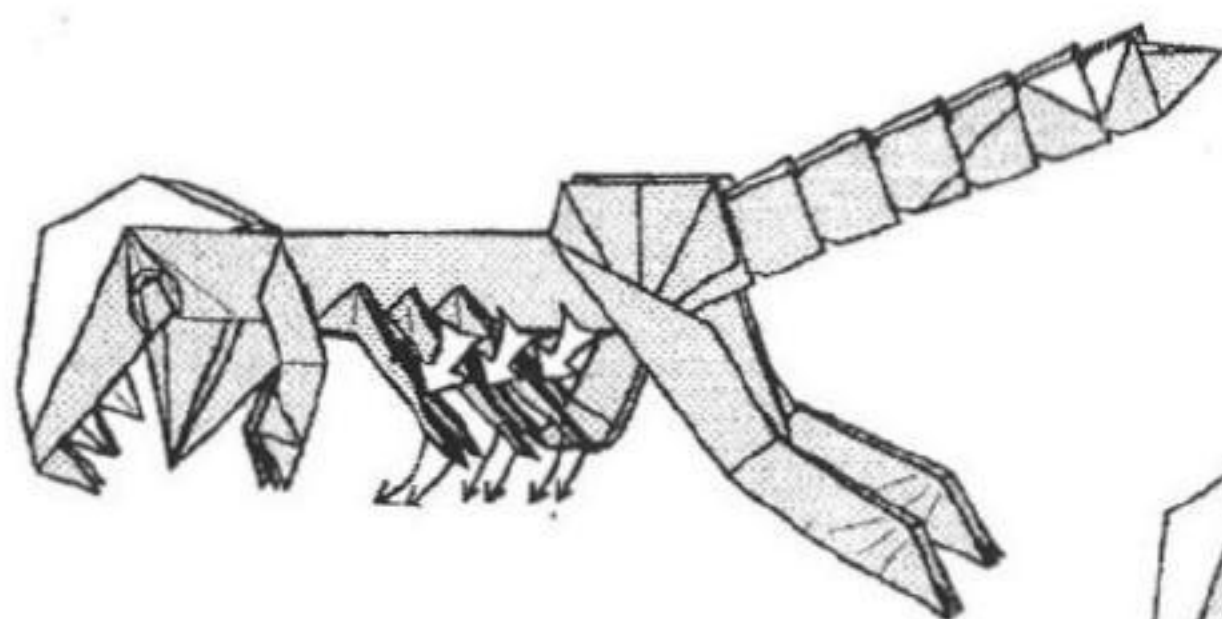
<149>折り上げる
裏面も同様



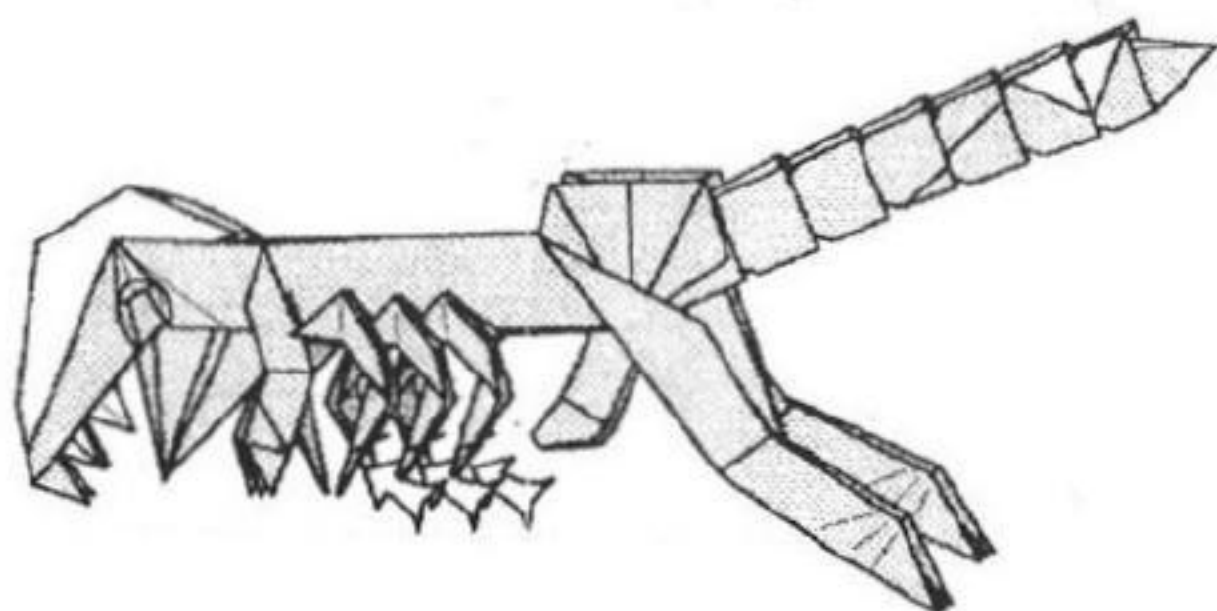
<150>つまみ折りして立てる
裏面も同様



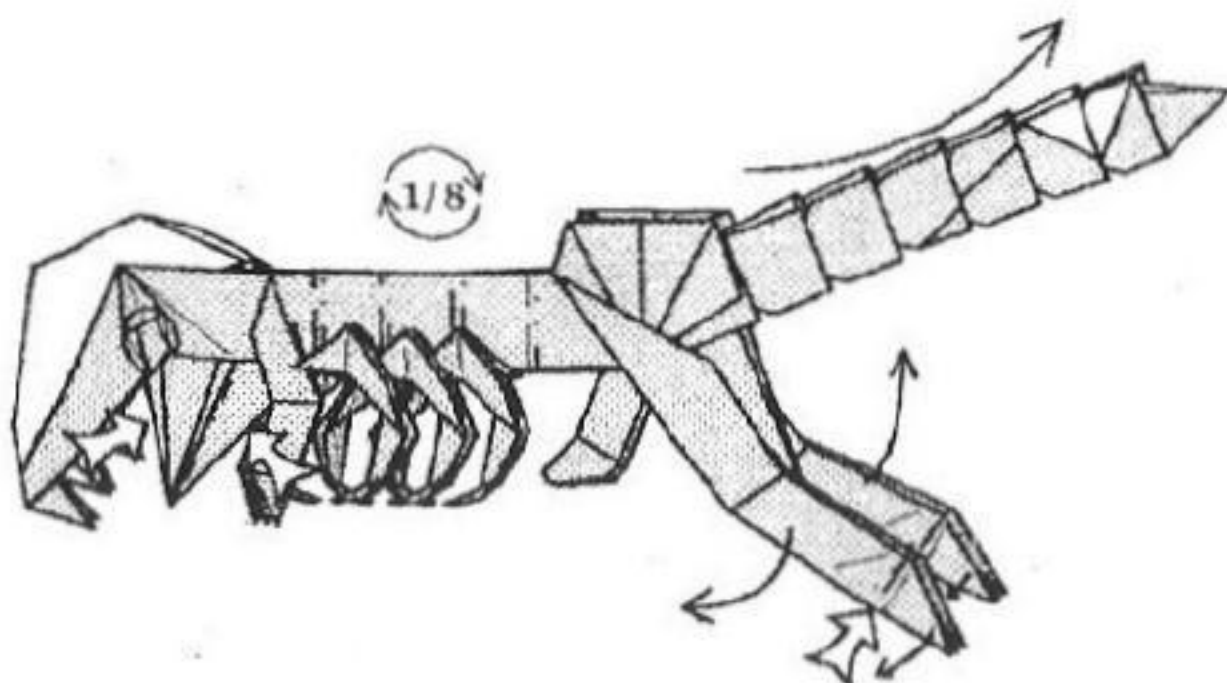
<151>のこりの4つの角も
つまみ折りして立てる



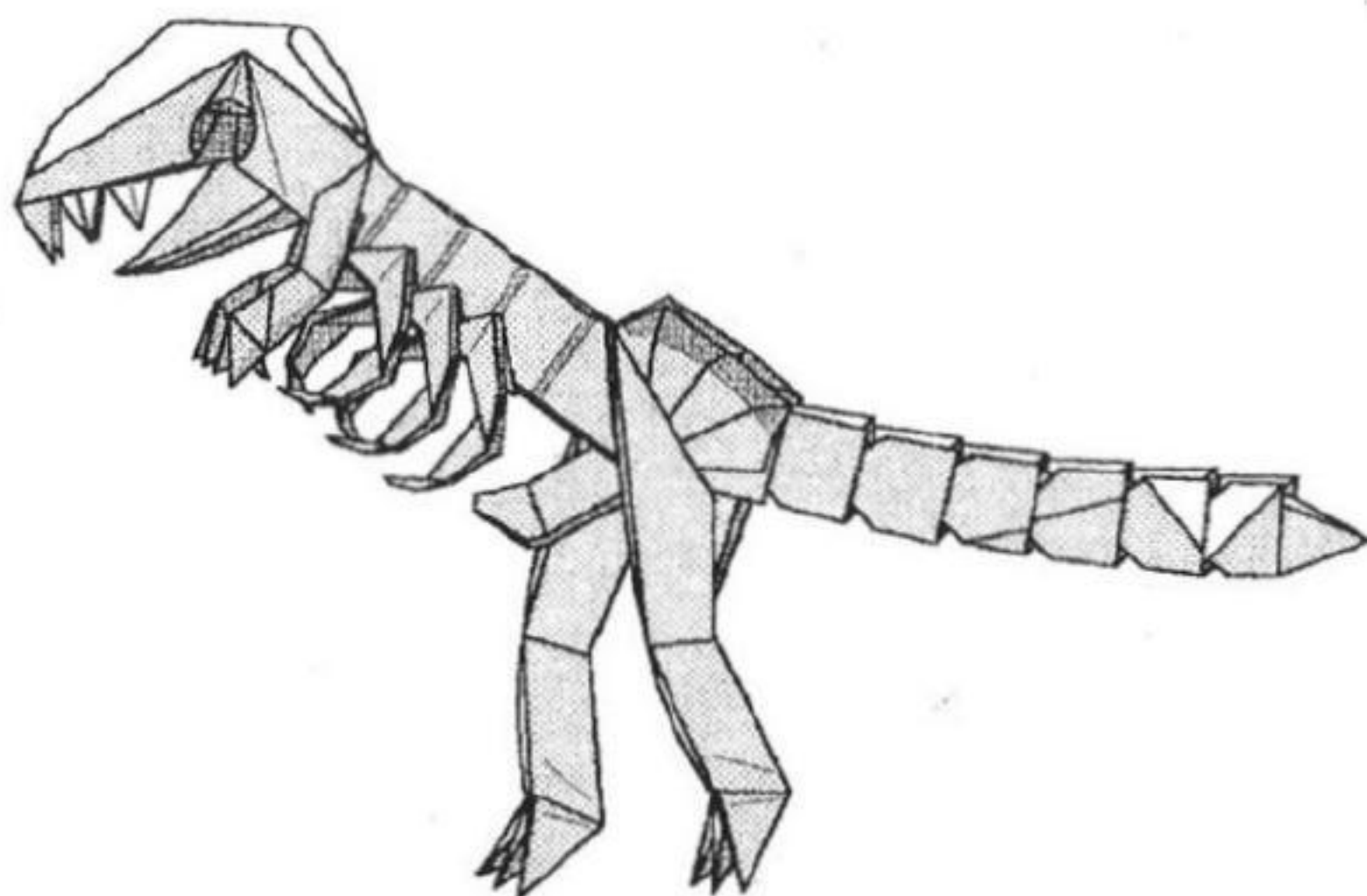
<152>あばら骨を中わり折り



<153>あばら骨の先端をかぶせ折り



<154>下アゴを左右から押して平らにする
背骨に軽く両面から段折り
足首を両面段折り
足の指を開く
尾をたわめる



おつかれさまでした
これにて正方形不切一枚折りティラノサウルス全身骨格

完成

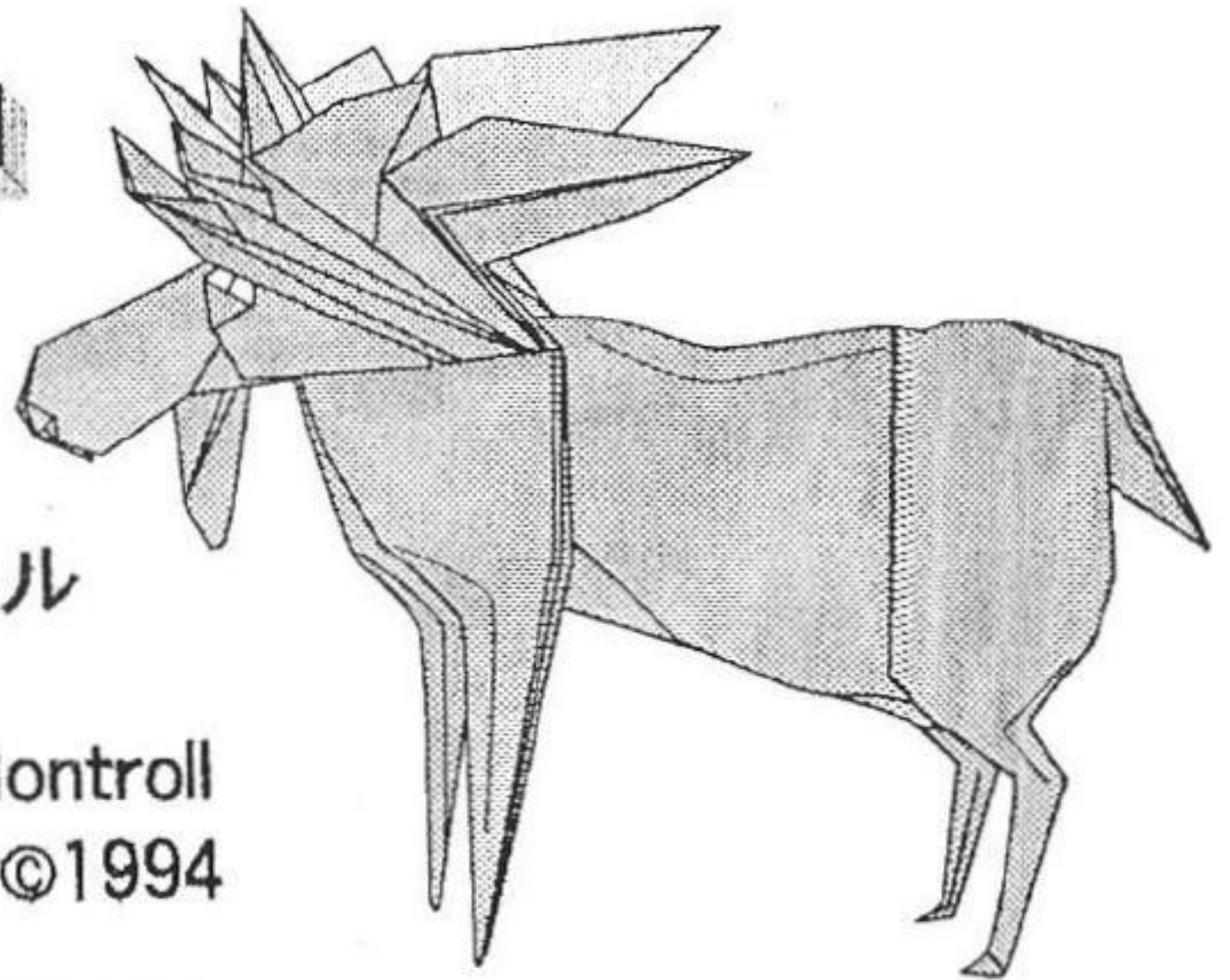
料理長のお奨め品

連載第1回

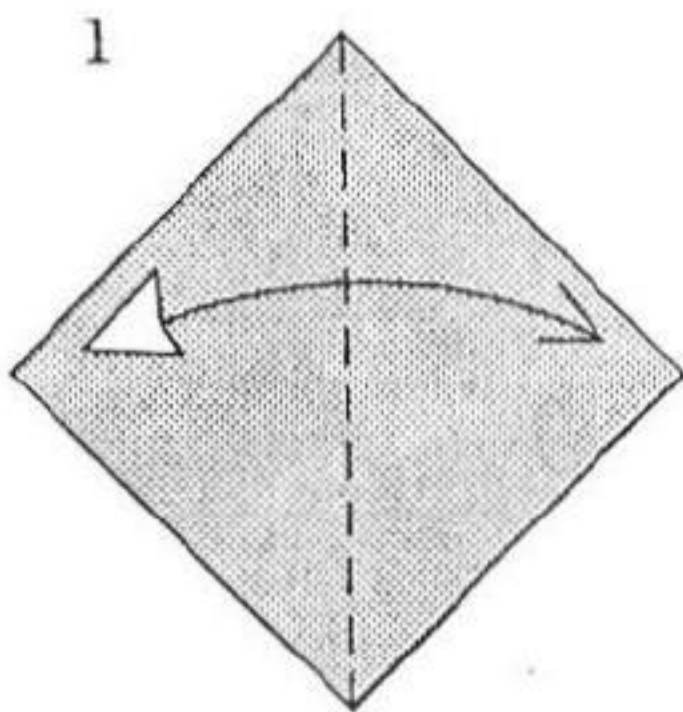
ムース

ジョン モントロール

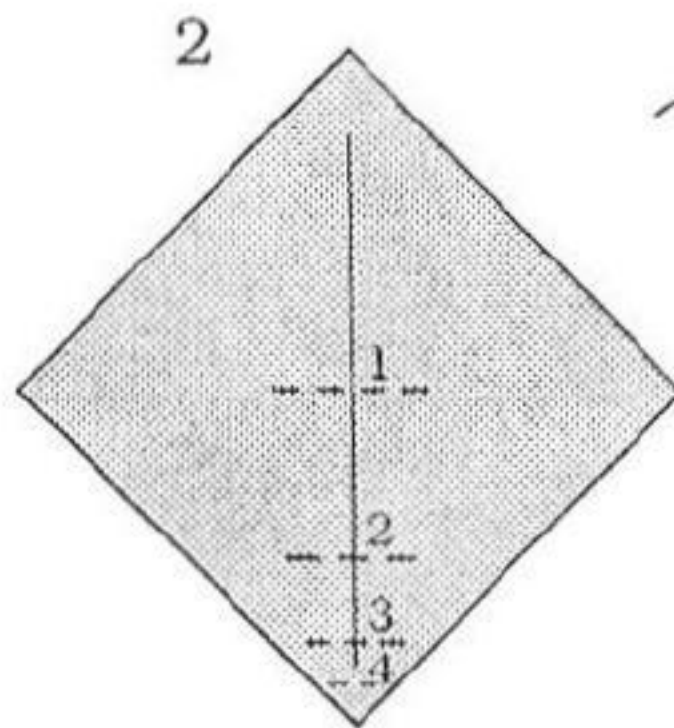
Moose by John Montroll
©1994



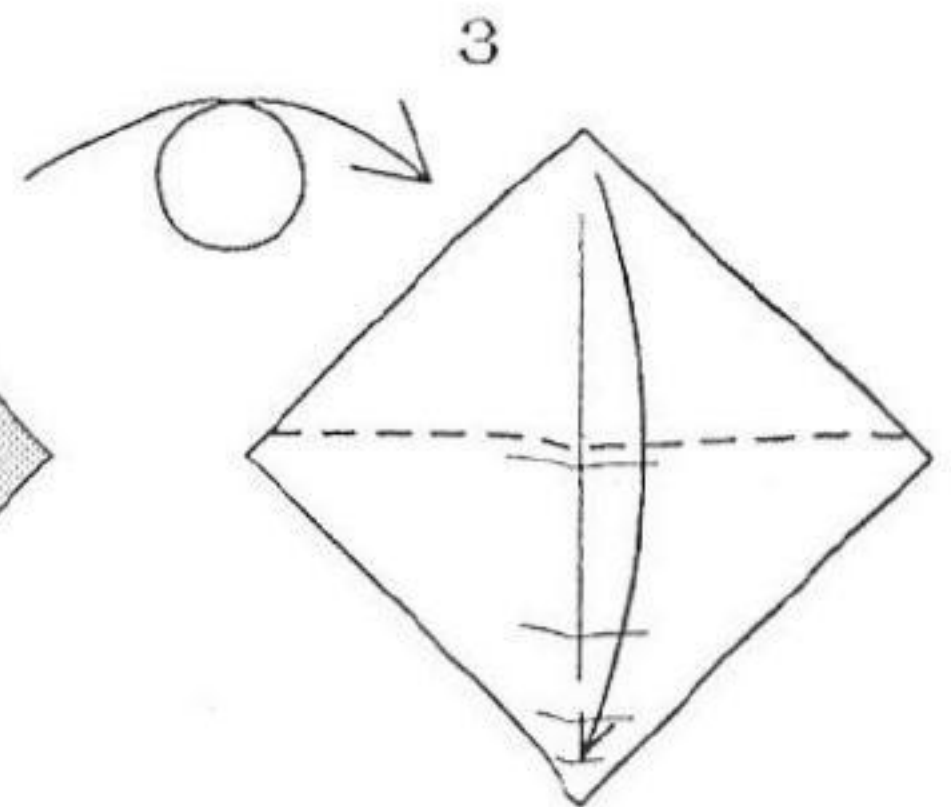
12月発売予定の彼の本[北米の動物]に紹介されている Moose (へら鹿)です。
(1月~2月に入荷予定=おりがみはうす)



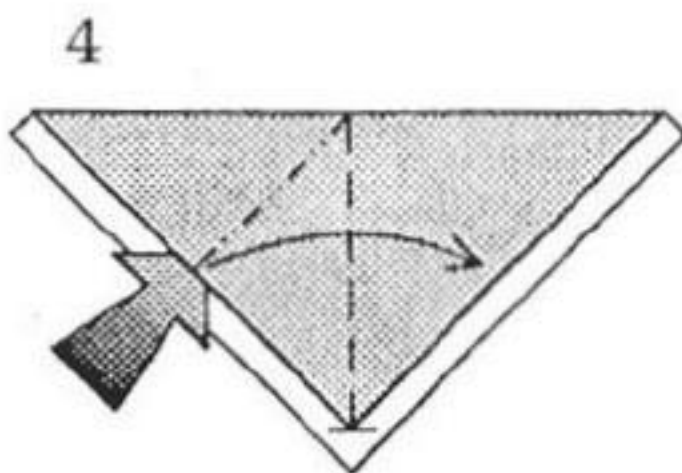
Fold and unfold
along the diagonals.
半分に折って折り筋を付ける



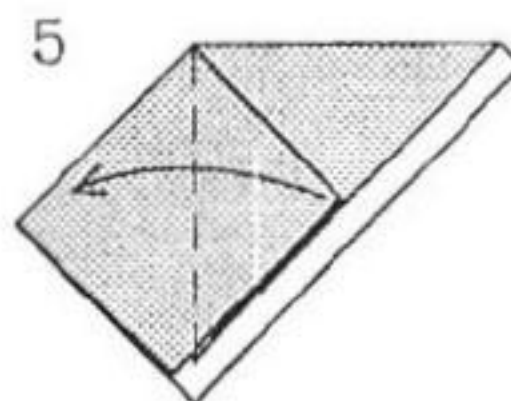
Continue dividing
in half while folding
and unfolding.
1/2, 1/4, 1/8と折って最後に
1/16の折り筋を付ける



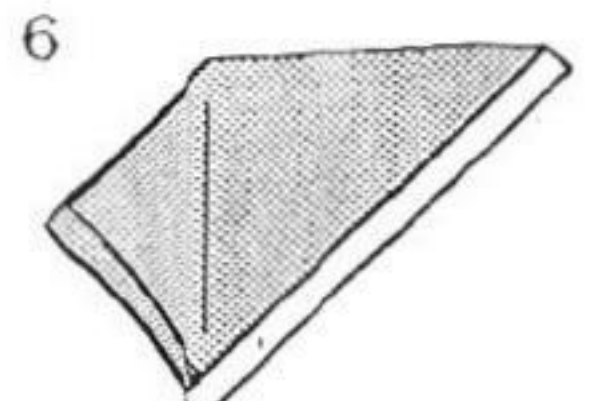
1/16の折り筋に
カドを合わせて折る



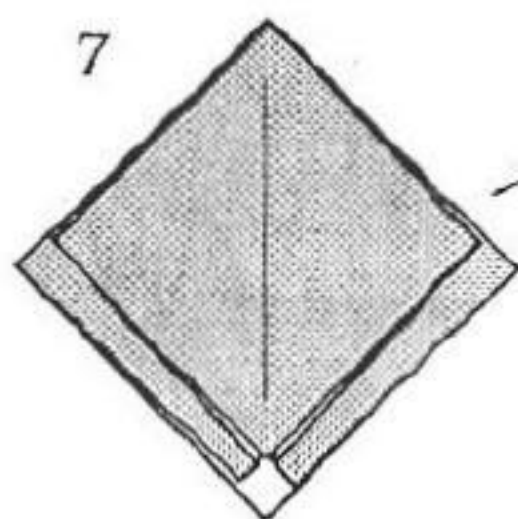
Squash-fold.
開いてつぶす



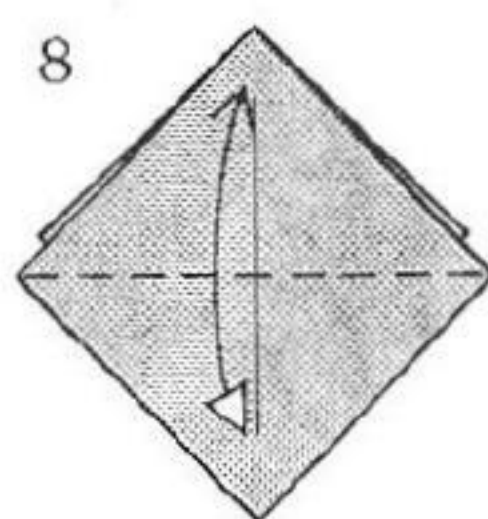
上の一枚を左に移動



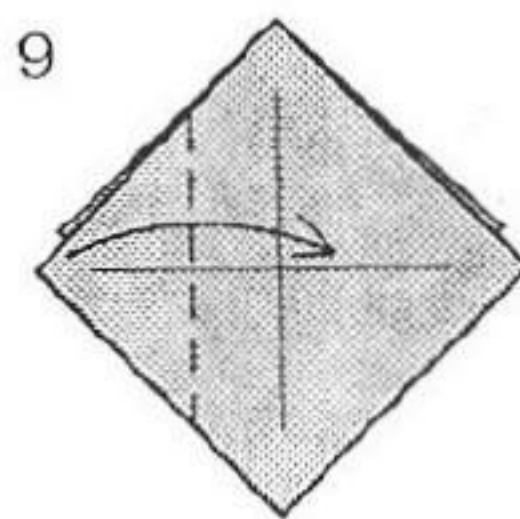
Repeat steps 4-5
on the right.
右側も、5と同じに折る



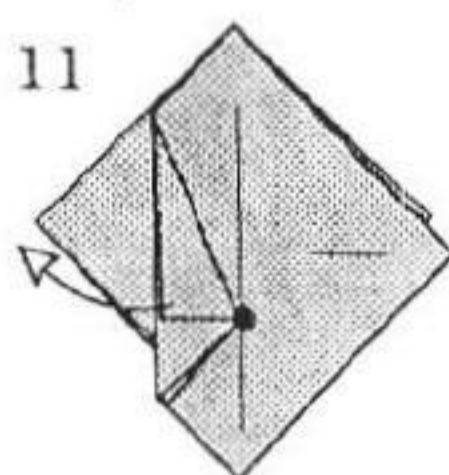
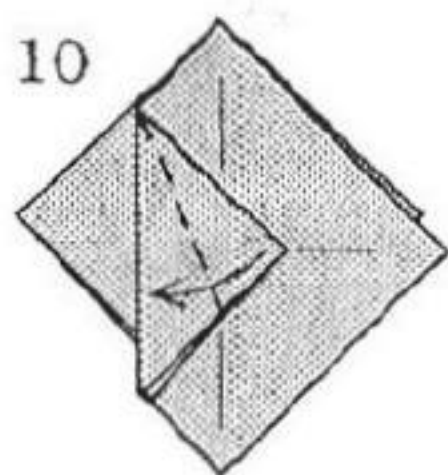
折り上がった図



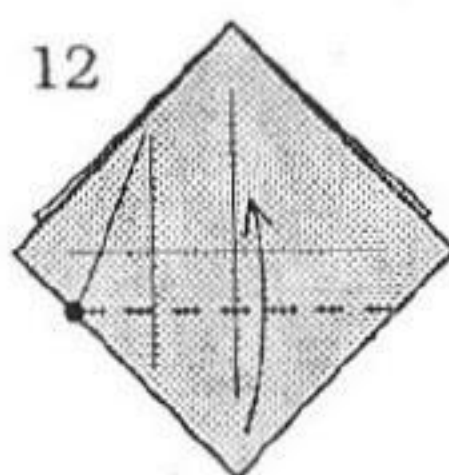
Fold and unfold.
折り筋をつける



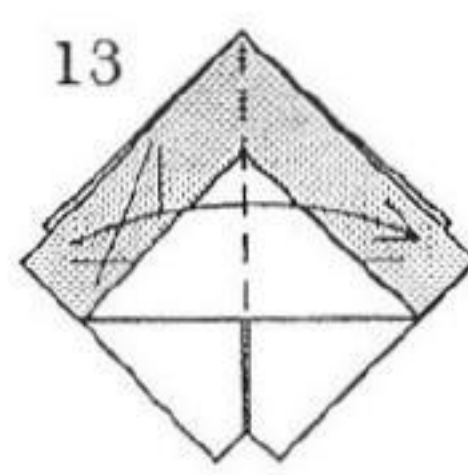
Crease lightly.
11の図のように折った
カドが中心線にそろっ
ように9と10を折る



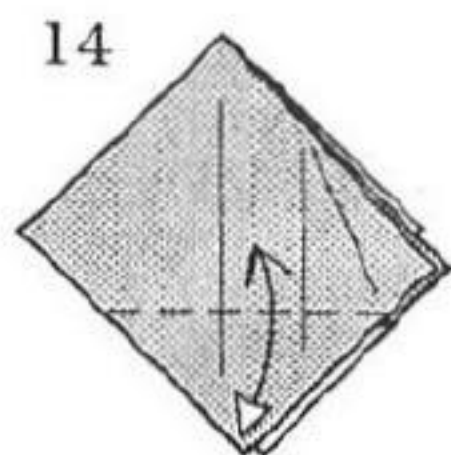
If the lines intersect at the
dot then continue. Otherwise
try again at step 9.
いったん広げる



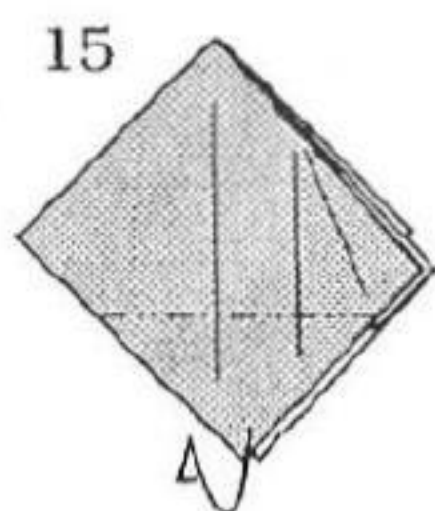
11のカドに合わ
せて折り上げる



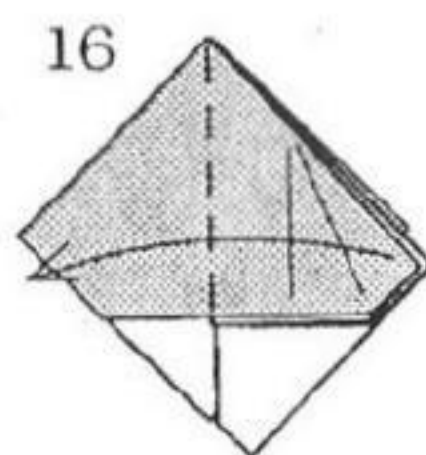
上の一枚を右に移動



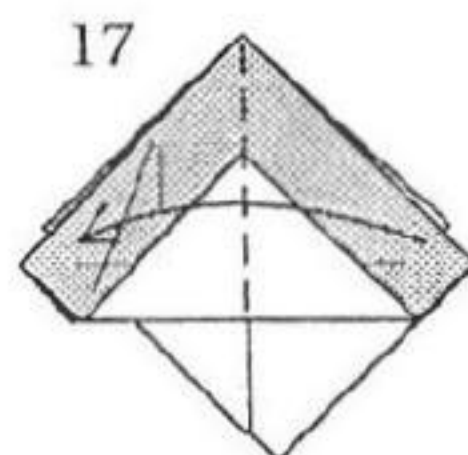
Fold and unfold.
下の辺のそろえて
折り上げる



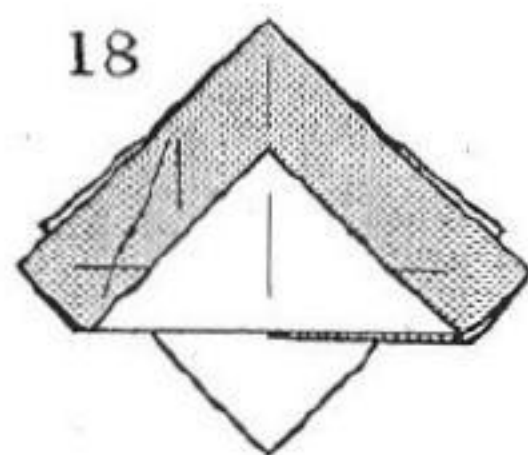
折り筋に沿って
内側に折り込む



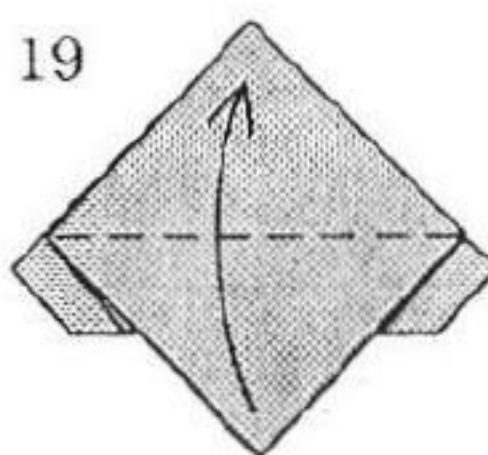
上の一枚を左に移動



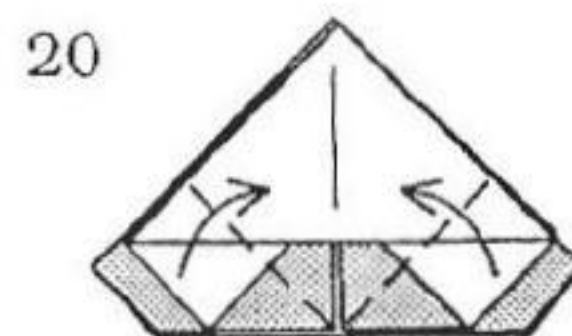
Repeat steps 13-16
on the right.
右側も13~16のように折る



折り上がった図

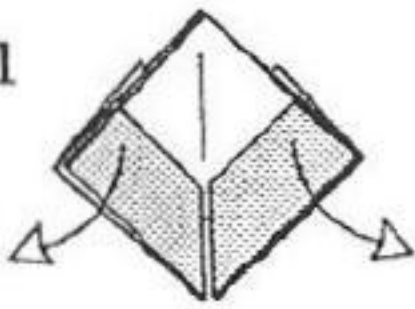


左右のカドに合わせて
折り上げる



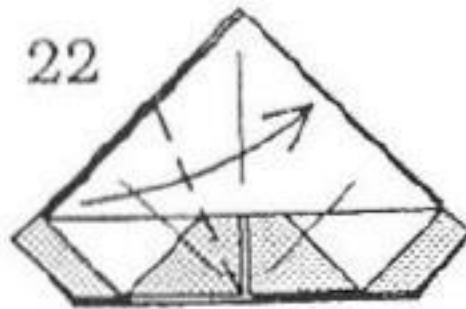
Repeat behind.
うら側も同様に行う

21



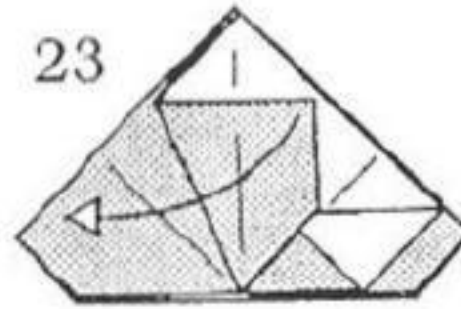
Unfold, repeat
behind.
折ったカドを広げる
(うら側も行う)

22



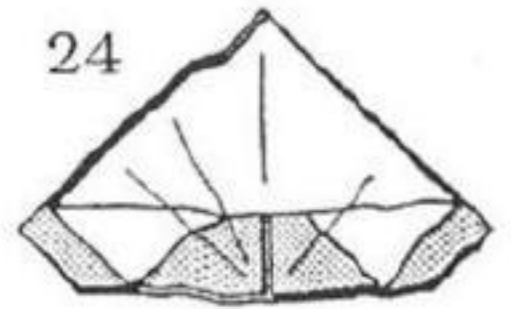
20で付けた線を
中心線に合わせ
るように折る

23



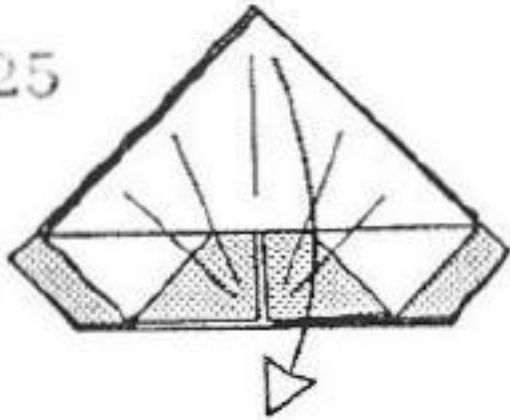
Unfold.
広げる

24



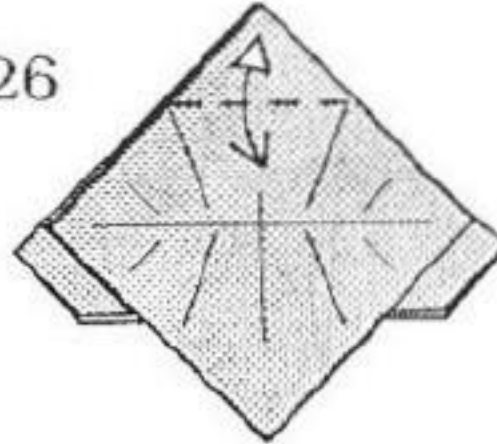
Repeat steps
22-23 on the
right and behind.
右側も22~23のように折る

25



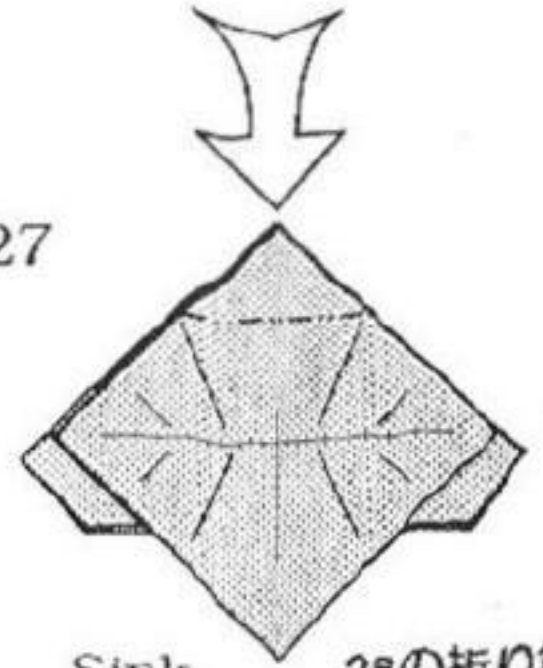
Unfold.
広げる

26



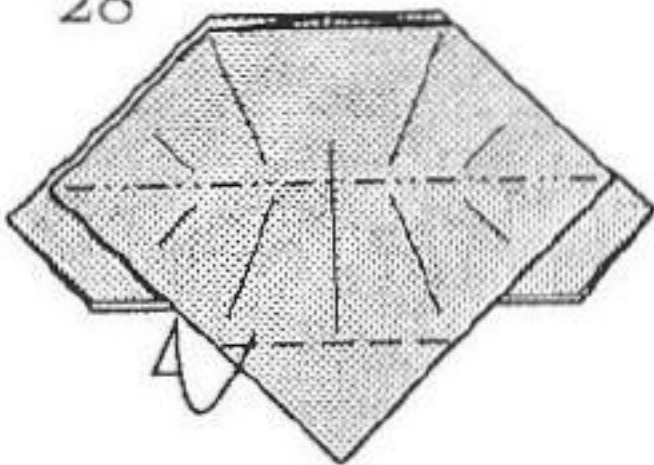
Fold and unfold.
22で付けた線の端に
合わせて折り筋を付ける

27



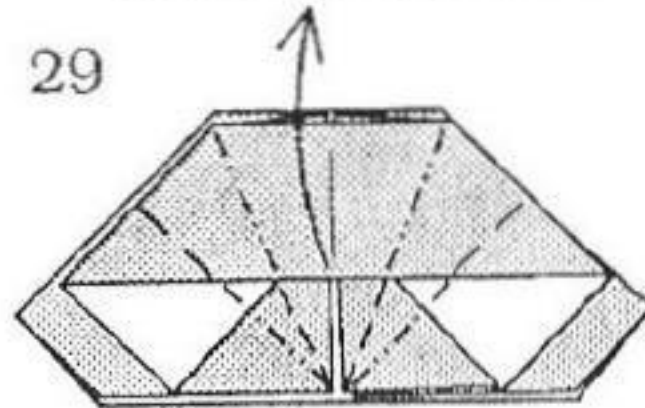
Sink. 26の折り筋に
合わせて沈める

28



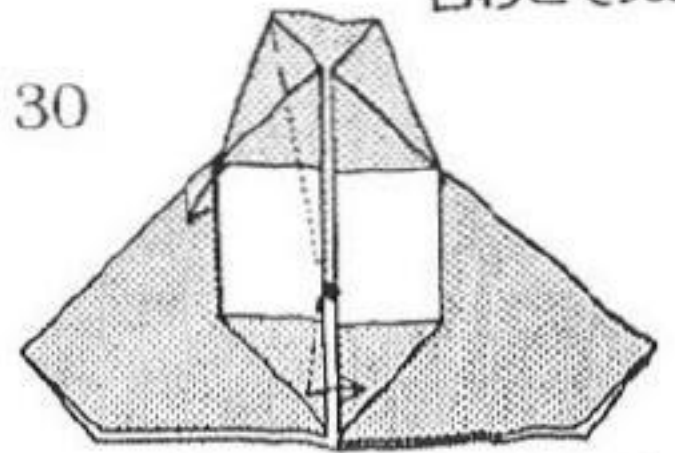
巻くように内側に折り込む

29



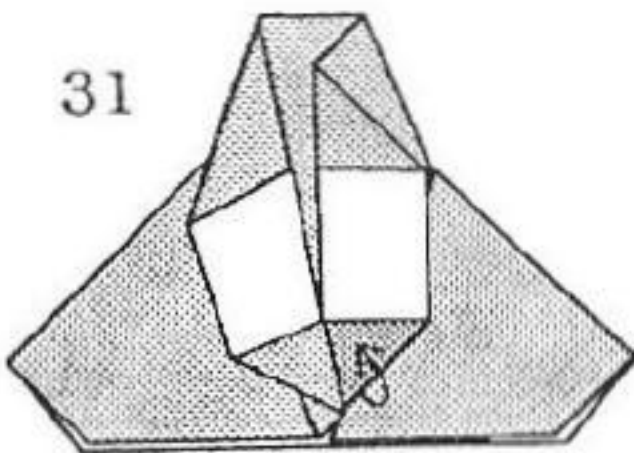
This is similar
to a petal fold.
つる折りの要領で引っ
張り上げてつぶす

30



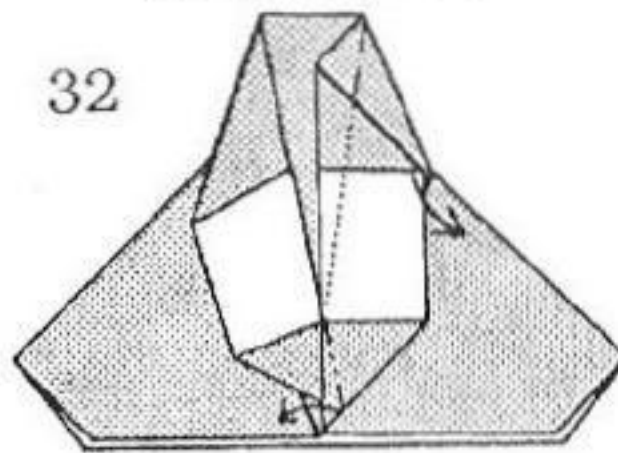
●の点を中心に回転させ
るように折る

31



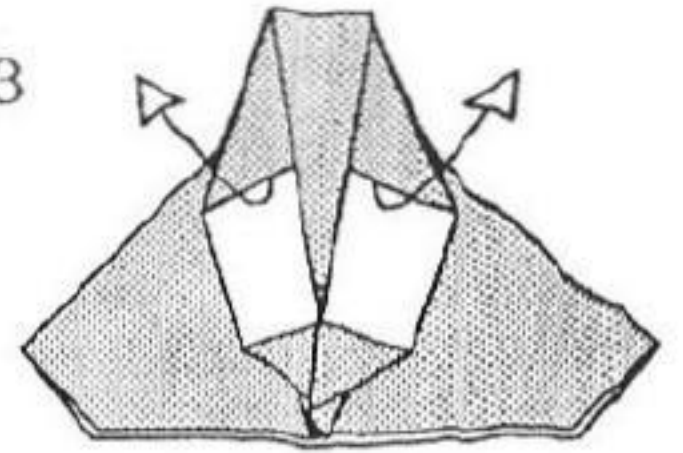
Place the dark
paper above.
上下を入れ替える

32



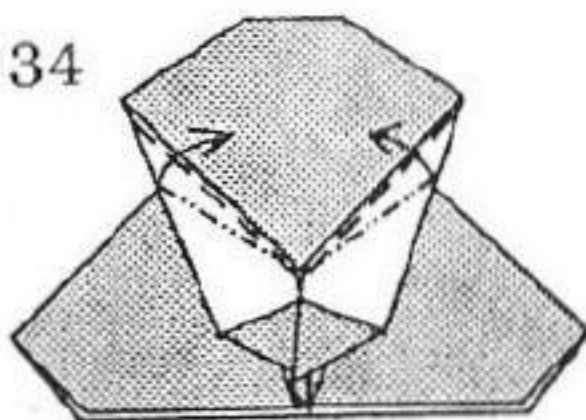
右側も●の点を中心に
回転させる

33



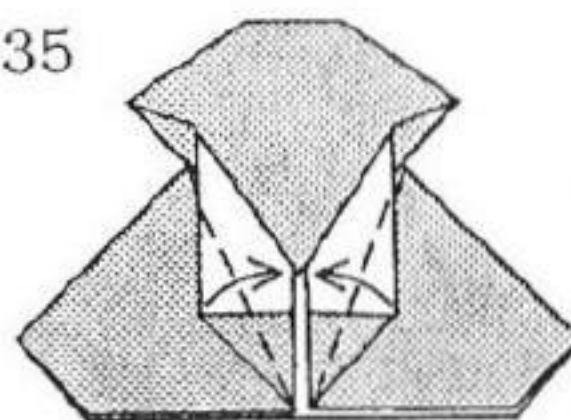
Pull out.
折り込まれた部分を引き出す

34



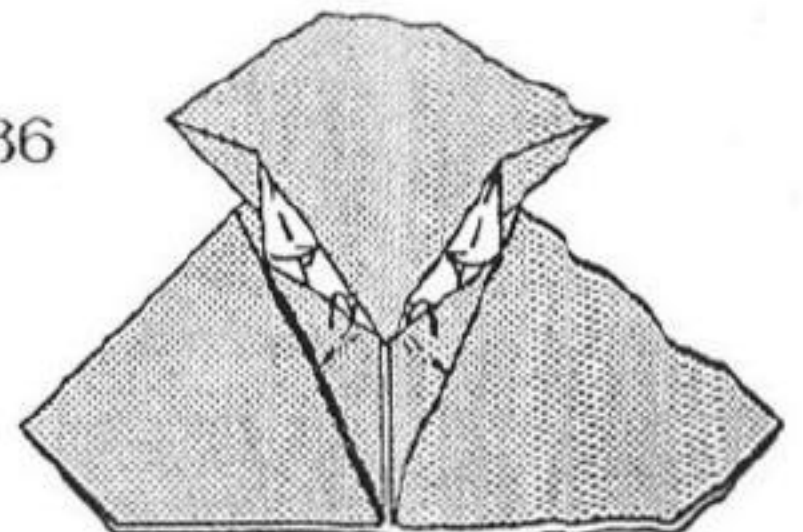
！上に重なった
辺に沿って段折り

35



中心に合わせて折る

36



裏の色が隠れるように折る



5. コンベンション

夕方、コンベンション会場のF I Tに行く。驚いた。600名程の参加者で広い食堂がぎっしり。参加登録所、事務本部、作品展示会場、講習会案内、物品販売所がばっちり設えてある。オークションまである。見事な運営だ。これまで参加したイタリア、イギリスのコンベンションの比ではない。感心していると突然、全員退去の命。いったい何事だ？訳が分からないまま階段を降りて外に出る。なんのことはない、火災避難訓練だった。またまたアメリカを感じてしまった。

講習会受講チケットの配布は、大人数にもかかわらず、整然と行われた。あらかじめ参加者に優先順位がつけられていたからだ。大津の折り紙科学国際会議のプログラム委員として、しっかりメモらねば。実は、今回の旅は会議の宣伝も兼ねている。

11日晴。20以上のクラスで講習会が、タイムテーブルに従って整然と進行する。折り方の説明、教育現場での実践、折り紙の数学理論など内容は様々。折り方講習が行われる作品は、難易度と講習日で分類展示され、作品名、講習者名、作品の制作者名が、Bulldog, C:Kasahara, T:Aoyagi (C=Creator, T=Teacher) というように記され、受講者がどの教室を選んだらよいか良く分かるようになっていた。講習会の詳しい内容等は紙面の都合で割愛する。布施さんの記事(NO.4)や山口さんの記事(をる)を参照されたい。

とは言え、自分が担当する講習の前後で、鞆の中身をぶちまける程の緊張から余裕へと大変貌する前川さんや、折り紙パッチワークでクリス・パルマーさんというライバルの出現に闘志をむき出しにする布施さんの姿があったことだけは、ぜひお知

らせてしておきたい。なお、とぼけたお婆、おねーさんに見えるこのお方は、その実、世界をまたにかけ真剣に紙と格闘する女戦士でありますぞ。シンポジウムで何回か会ったくらいで、布施さん…なんて気安く声をかけちゃ駄目であるぞよ。ありや、布施調になっちゃっただよ。

6. 興奮のワシントン

3日間にわたったコンベンションや晩餐会も終わり、13日の前川組に続き、14日には山口組も帰国の途につく。残留組はハーマンさんと共に列車でワシントンに行くことになった。ワシントンでは、帰国組がじだんだ踏んでくやしがるようなリッチな生活待ち受けていた。

朝、シャルさんがペンシルベニア駅まで送ってくれた。列車は40分遅れで出発。3時間半でワシントン駅に着いた。でかい！ヨーロッパを意識してた造りで、ミラノ駅をずっとおしやれにした感じだ。あかぬけた土産物店、レストラン、異常に広い軽食コーナーもあり、いるだけでわくわくする。タローさんの目も輝いている。2時を過ぎている。PIZZA UNOでピザを食べることにする。布施さん曰く、サッポロ一番だね。(UNOはイタリア語で1を意味する)

広々とした駅前に出て、バスを待つ。気温は35度を超えていて暑い。おっ！隣りで猫が顔を洗っている。よく見ると、布施さんがUVケアクリームを塗っている姿であった。観光バスに乗って市内観光。国会議事堂、スミソニアン博物館群、モニュメント、リンカーン記念堂、……。ニューヨークと対照的に、高層ではないが巨大な建造物が緑の中に散在している。街全体が公園だ。

バスガイドのおねーちゃんが、でかいビルを指して、ウォーターゲートがどうこうと言っている。ウォーターゲート事件に関係した何かなんだろうと思っているうちに、マオ(毛)さんに紹介されたアパート付近にバスが着いた。地図

を手にしたハーマンさんは先程のかいビルに向かっている。もしかして？今夜ここに泊まるの？ウソー！我々はもちろん、ハーマンさんも大興奮。ウォーターゲートアパートの入口ではガードマンがドアを開けてくれる。チェックインを済ませて部屋に向かう。エレベータには正面と背面の2箇所にドアがある。こんなエレベータは病院にしかないものだと思っていた。エレベータを出ると、軽くカーブした廊下に出る。厚い絨毯が敷きつめられている。壁にはシックな絵も飾られている。「布施さんは今夜ここね」と廊下のゴージャスなソファを指さす私の声は引きつっている。どんな部屋だろうか？心をときめかせ、ビデオカメラを構えてドアを開ける。「インクレディブル！」ハーマンさんが叫ぶ。目も口も開きっぱなしの布施さん。驚きと喜びで顔をひきつらせている妻。

部屋に入って早速探検だ。まずタローさんが、クラッシュドアイスの入ったグラスを得意げにひけらかす。クラッシュドアイス自動製造器を発見したのだ。布施さんと妻はウォーターベッドに抱きついていて。私はバスルームで、金の蛇口から滝のように流れ落ちるお湯を堪能したように見続ける。興奮の時間がどれくらい続いたであろう…。落ち着きを取り戻すと、ベランダに出て外を眺める。眼下には、半分に切ったバウムクーヘンのような形のビルに囲まれた中庭が見える。プール、カフェテリア、噴水、掃除のおじさんが小さく見える。正面には、ポトマック川、森。そしてその向こうにはジョージタウンのビルが見える。これがアメリカの金持の家なんだ。5つ星のアパートなんだ。溜め息が出てくる。

マオさんご夫婦が、ナンバープレート「ORIGAMI」の愛車で、夕食を誘いにみえた。ジョージタウンのレストランで食べたミシシッピース



タイルのステーキ。食後のワシントンの夜景見物。どちらもすばらしかった。マオさんに感謝。

15日朝。今日も暑い、はずだ。しかし5つ星アパートは別世界。今日は1日ここにしようか。が、ハーマンさんは動物園へ。今日はバラバラに動くことにした。地下鉄で駅に行く。駅同様きれいだ。駅の軽食コーナーでコーヒーをすすり、でっかいクッキーをほおぼる。1時にニューヨーク着。駅の寿司バーに入る。日系の板前さんは、妻がTVのドラマに出ていた人に似ていると言って、カリフォルニアロール(アボガドが入った巻寿司)をサービスしてくれた。この板さん、高倉健に少し似ていた。ちなみに、私は吉幾三に似ていると言われたことがある。

7. 再びニューヨーク

16日朝。5つ星アパートにさよならしてニューヨークに戻る。夜、ダコタハウス(ジョン・レノンが住んでいたアパート)向かいのレストランで、キャサリンさん夫婦、シャルさん、ハーマンさんとイタリア料理を楽しむ。食後、千鳥足でシャルさん宅を訪問する。部屋の壁は折り紙仲間の写真で埋め尽くされていて、折り紙にかける情熱の程を知ることができる。シャルさんと同じアパートに住むキャサリンさん夫妻に、結婚式の写真を見せてもらう。私のバラで飾った結婚式だ。こんなにもバラを愛してくれるなんて。作家名利に尽きる。この夜遅くまで、シャルさんは折り紙について布施さんと語り合っていた。

17日朝、布施組と共にニューヨークを待つ。楽しかった旅が終わった。

今回の旅は少し余裕を持てた。コンベンションの運営はすごく勉強になったし、シャルさん、ハーマンさんを始め多くの人と仲良しになった。山口さん御夫婦とも仲良くなれた。実りの多い旅であった。

8. エピローグ

帰国して兄に今回の旅のビデオを見せた。「おまえの旅行はなんや。ほとんど布施さんいじめやんか」と評された。そうかなー?でも一応、タローさん御免なさい。さて次は誰とどこに行こうか。

11月11日の 「おりがみの日」

今年も11月11日「おりがみの日」を記念したイベントが開催されます。今回は第2回目の開催となり、昨年のおりがみ供養と作品展に加え、懇親会なども予定されています。スケジュールは以下の通りです。奮ってご参加下さい。

第1会場:

ギャラリーおりがみはうす
「第2回ミニチュア折紙展」
10月24日(月)～11月26日(土)

第2会場:

こどもの城(渋谷区青山) B1フリーホール・「おりがみカーニバル」
テーマ “あなたのクリスマス”
11月11日(金)～11月13日(日)

<イベント>

「おりがみ供養」: 於 白山神社
11月11日(金) 午後2時～3時半
参加費無料

「懇親会」: 於 文京区民センター
11月12日(土) 午後6時～8時
参加費 5000円

「おりがみ供養」「懇親会」の申し込みは11月4日までに折紙協会事務局まで。

折紙探偵団ミニコンベンション開催 のお知らせ

折紙探偵団が結成して、まる5年が終わろうとしています。これを記念して折紙探偵団では、「折紙探偵団ミニコンベンション」の開催を予定しています。

このコンベンションは、15名前後をひとクラスにしたワークショップ形式で行ない、難解な作品や折り図では伝わらないテクニックなど作者と一緒に徹底的に折りまくってみようという会になりそうです。現在のところ、期日は未定(「季刊をる」誌

上で2月とお知らせしましたが、会場の都合により1995年の4月になる予定です)。会費は2日間で4000円前後(懇親会費は含まない)、募集人員120名。会場は東京都文京区民センター(地図参照)です。普段はお目にかかれない大きな紙にチャレンジするコーナーなど各種イベントも企画中ですが、詳細は折紙探偵団新聞誌上で随時お知らせしていきますので楽しみに。

今年の忘年会は12月3日

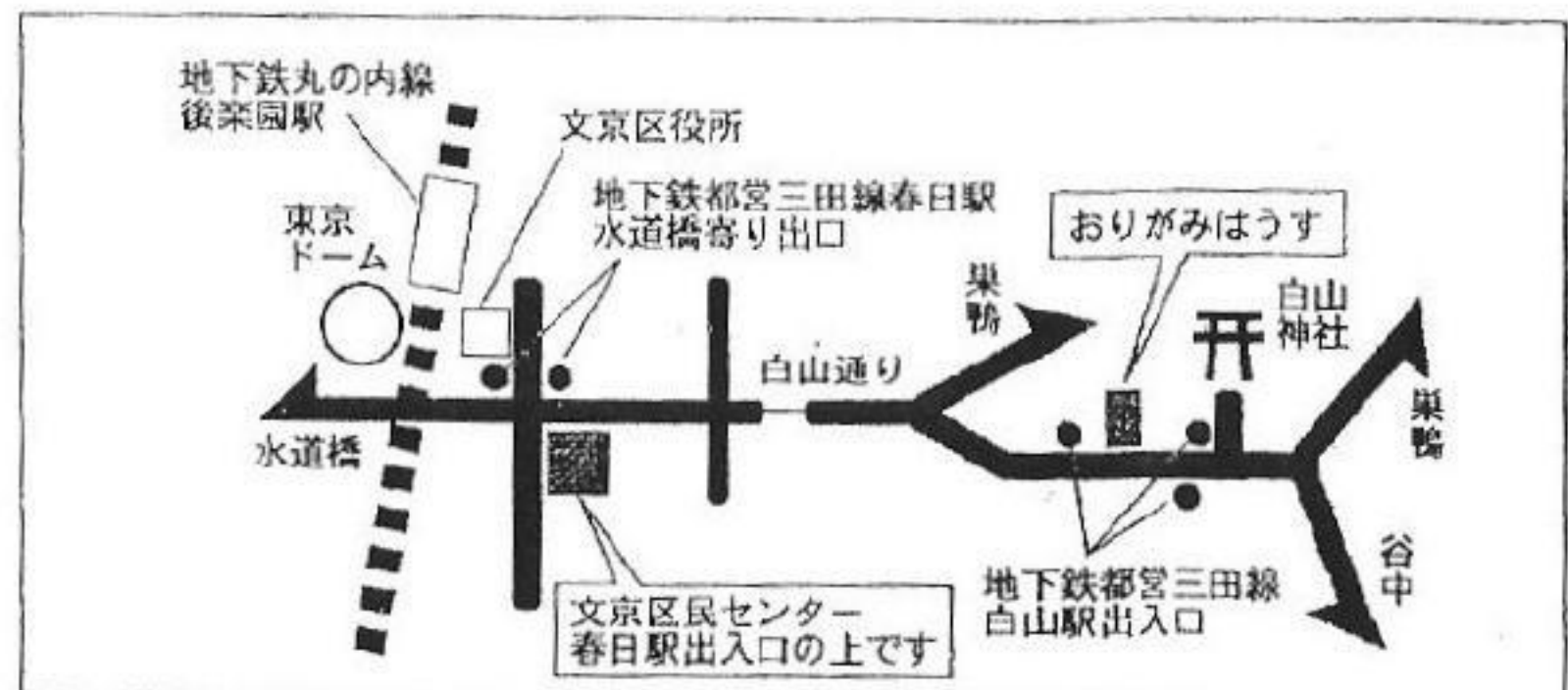
折紙探偵団は恒例の忘年会を12月3日に行ないます。折り紙の今年を肴におおいに盛り上がりましょう。

場所は昨年同様東京文京区民センターです。(地図参照)

時間 午後6:00-9:00

会費 4000円

参加を希望される方は11月15日ぐらいまでに「おりがみはうす」までご連絡ください。



おりすじ

私が名探偵になった理由

和久敦也

人の人生の成り行きを「宿命」・「運命」・「使命」の三通りに分けるとすれば、人の縁（えにし）というのは「運命」の一部にでも属するのだろうか・・・とかく縁とは本人がいかような者だろうが、時と場所さえあれば勝手に広がっているのだ、大いに驚かされる事すらある。実はここにこうして私が記述することによってある縁の輪の様なものが完成する出来事があるので、今回はその話を少々・・・

ずいぶん昔のことである、私が京都にある百貨店の手品売場でアルバイトをしていた頃・・・そこにちよくちよく顔をのぞかせる御客の一人に後の推理作家・綾辻行人氏がいた。もっとも、「後の」と書いたようにその頃の私には比較的年令も近い、フォーク・ソングと手品と推理小説好きの気さくな人だったので、よく皆で喫茶店等に行き、覚えたての手品の見せ合いなどをやって遊んだ。

今でもそうであるが、私は決して手品や折紙が趣味という訳ではない。私に言わせれば手品と折紙には、他のものに無い特異的な共通点があり、その中に私の趣味もあるのだが、この話は長くなるので割愛する。

ともかく、当時「ピバ！おりがみ」が発刊されたばかりという事もあり常に何かを折っていたような気がする。もちろんあの前川淳氏の「悪魔」も空で折れる様にして、いろいろな所で折っていた。もちろん後の綾辻氏の前でも折った・・・

あれは綾辻氏の一作目「十角館の殺人」が出て、少したっての事である。綾辻氏がしばらくぶりに売場に現れた。

「いや、十角館の殺人面白かったですね、あんなのが書けるなんて・・・やっぱりスゴイと思いますわ！」

（実は、読んでいなかったのだが）
「いえ実はあの後、編集部の人からもっと探偵にインパクトを与えるように言われてましてね・・・」

「はあ・・・」

「だから探偵にもっと変な癖や趣味を持たせようと思ってんですよ」

「はあはあ・・・」

「それで和久さんの事を思い出しましてね、折紙研究家にしたんです」

（ど～ゆ～こっちゃ～！！）

この後完成した作品を読ませていただいたが・・・探偵が、私が折紙について綾辻氏に言ったのと同じセリフを話している場面があるのには、思わず一人でほくそ笑んでしまった。

一は地下鉄三田線春日駅上、丸の内線後楽園駅も近くです。地図は前のページをご覧ください。

11月は忘年会と日程が近いので中止となります。

ギャラリー おりがみはうす

個展案内

小さなおもしろさ！
第2回ミニチュアおりがみ展
—— 日本折紙協会主催

10月24日（月）～11月26日（土）
日曜、祝日はお休みです。

「おりがみの日」恒例の作品展です。丁寧に仕上げられた小さな世界をお楽しみください。



折紙探偵団定例会 変更のお知らせ

今回より大幅に変更があります。土曜ではなく日曜、会場はおりがみはうすではありませんのでご注意ください。

10月30日（日）午後1時から9時まで文京区民センターにて行ないます。

5時までは折り紙教室やら何やらご自由に、それ以降は軽く飲みながらおしゃべりでもしましょう。

会費は1500から2000円程度です。日時、場所などは毎月同じ所が予約できるとは限りませんので、あらかじめ、おりがみはうすにご連絡をいただいたほうが安心です。

文京区民センタ

海外作家展 クリス パルマー 幾何学折り紙作品展

11月28日～12月24日（日、祭定休）
海外折り紙作家展も今回で3人目。つねに刺激的な作品との出会いがある。特に今回は、日本ではほとんど知られていない若き天才的折り紙作家の登場。彼の不思議な幾何学的作品は今年のニューヨークのコンベンションにおいて、我々を刺激してくれた。その彼が、今回、折り紙の科学国際会議に主席するにあたり作品展を開く。尚、彼は作品の販売を希望している。

— お詫び —

大好評人気連載漫画「オリガミ戦士山折おり太！」は作者緊急琉球王国取材旅行の為休載させていただきます。

— 編集後記 —

◆見学だけだったんですが吉野さんのマックあつかいの早さには驚きました。（飯）

◆私は、決して怪しいものではありません。どこにでもいる平凡な一手品師です。（w）

◆木村さん、折図の電脳処理どうもありがとうございました。読者の皆様、これからはもっと判り易い折図を描きますので今回はこれでご勘弁下さいませ。（まぐろの骨）

◆分かり易くなくてもいいから読者の皆さん折り図おくれ。（木）

◆「折紙博物誌」のテーマに影響されたのか、28号のキャッチフレーズは、まるでどこかの漫画雑誌のようになってしまった。それにしても毎週1万倍も印刷されているんだね。（SN.）

◆やっとならびに作品を展示していただけることになりましたが、1年前のものというのがお恥ずかしい。皆さんもお忙しいはずなのに、凄腕パワーですね。

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6040

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫